

※ 今週のアウトルック(7/18~7/21)

先週は週中あたりまでは一進一退が続いたのち、ドル円は水曜日からクロス円は金曜日に円安が大きく進みました。

CHF/円は最高値を更に更新しています。

今週は木曜日の早朝にFOMCとFRB議長定例会見を控え、前半は動きづらい展開が予想されます。

今後の利上げ予定が市場の予想と食い違った場合には、大きく動き出す可能性も考慮した方が良さそうです。

先週のドル円は金曜日に141円台後半まで一気に上昇しました。ただその後のNY市場では、142円付近の強いレジスタンスに苦戦する状況が続いています。

今週は木曜日早朝にFOMCを控え、一旦は利益確定が先行する可能性が高いかもしれません。

その後、FOMCにサプライズがあった場合には、どちらかへ大きく動き出す可能性も考慮する必要がありそうです。

ドル円の予想レンジは137円から145円です。

先週のユーロ円は、158円付近のレジスタンスをブレイクできずに週末を迎えることとなりました。

ユーロドルも1.13付近のレジスタンスをブレイクするには、まだ力不足のようです。

今週は158円を超えて上昇できるかどうか、まずはポイントとなりそうですが、一時的に超える可能性はあるものの、FOMCが終わるまでは、継続的に上昇していくことは難しいかもしれません。

また、FOMCにサプライズがあった場合には、大きく動く可能性を考慮しておいた方が良さそうです。

ユーロ円の予想レンジは154円から160円です。

ポンド円は週末に182円台まで上昇したものの、そろそろ頭打ち感が出てきている様子です。

FOMCなどをキッカケに、180円割れを目指す展開に反転する可能性なども考慮した方が良いかもしれません。

ポンド円の予想レンジは175円から188円です。

木曜日早朝のFOMC及びFRB議長の定例会見は7、8割は予想通りとなる可能性が高そうですが、それだけにサプライズがあった場合に大きく動く可能性は高いようにも思います。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(7/18~7/21)

先週はドル売りがかなり進みました。
一方、ユーロ円、ポンド円などは下値確認から上昇の気配を見せています。
今週はドル売りが一旦落ち着いたかのように見えるものの、
日銀が今後のycc方針について変化の兆しを匂わせていることなどから、
再び円高に向かう可能性も考慮した方が良いかもしれません。

先週のドル円は金曜日一時に137円台前半まで下落しました。
その後、138円台後半まで戻して週末を迎えています。
今週は再び円安方向に舵を切るのかが注目されますが、下落速度が
早かったための一時休止と考えることもでき、再び下落する可能性も
考慮しておいた方が良いでしょうと思います。

ドル円の予想レンジは135円から142円です。

先週のユーロは、ユーロドルが1.12を超えるまで大きく上昇しました。
流石に今週も大きく上昇する可能性は少ないとは思いますが、
時間をかけて1.14付近まで上昇する可能性はあるように思います。
一方ユーロ円は円高の流れに抵抗を受けながらも155円台後半まで
上昇しました。
再び158円付近のレジスタンスブレイクを狙う可能性は、考慮しておいた
方が良いでしょうと思います。

ユーロ円の予想レンジは154円から158円です。

ポンドはポンドドルが上昇トレンドを維持しているものの、
ポンド円は停滞しています。
このまま185円付近のレジスタンスブレイクが成功しなかった場合には、
一度175円付近まで調整する可能性も浮上してきそうです。

ポンド円の予想レンジは175円から188円です。

先週の急激なドル売りからのリバウンドがどのあたりまで進むのかが
まずは注目されますが、しばらくはレンジ内の動きとなる可能性が
高いように思います。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(7/10～7/14)

先週は木曜日までは一進一退の攻防が続き、金曜日の米国雇用統計の発表を受けて一気に円高が進みました。非農業部門雇用者数の減少が予想以上だったことが嫌気されたようです。

今週は円安終了をうかがわせる展開が本物なのか、あるいは単なる調整に過ぎないのかを、まずは見極める必要があります。

先週のドル円は金曜日まで一進一退の展開が続き、金曜日の米国雇用統計の悪化を受けて一気にドル安が進みました。142円付近まで下落してそのまま週末を迎えています。

今週は週明けのアジア市場でどの程度までこの流れを引き継ぐのかをまずは見極める必要があります。

現状の日米の金利差や、雇用悪化を受けた利上げペースへの影響もまだはっきりとしない為、下落しても141円、あるいは140円付近で下げ止まる可能性が高いと考えています。

ドル円の予想レンジは140円から145円です。

先週のユーロ円もやや利益確定が先行して、金曜日の米国雇用統計の悪化を受けて更に下落しました。

今週は154円付近で下支えできるかどうかはまずはポイントとなりそうですが、154円を割り込む可能性は少ないと考えています。

ユーロ円の予想レンジは154円から158円です。

ポンド円は185円付近のレジスタンスに阻まれています。米国雇用統計悪化の影響で金曜日には182円中盤まで後退しました。ただ今週は、再び185円付近のレジスタンスブレイクに向かう可能性が高いように思います。

ポンド円の予想レンジは180円から190円です。

全般的にはドル高トレンドに少し暗雲がかかった状況ですが、FRBなどの具体的な動きがない限り、しばらくはレンジ内の動きとなる可能性が高いように思います。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(7/3~7/7)

先週は全般的にはドル高が一步進んだ形となりました。
週末には、節目に差し掛かったことによる利益確定と、日銀の介入に対する警戒感から、少し調整しています。

今週は介入を警戒しながらの上昇となりそうですが、
実際に介入があった場合には、しばらく乱高下となる可能性もありそうです。

先週のドル円はドル買いが継続し、金曜日に一度は145円を突破したものの、すぐに引き戻されて144円台前半で週末を迎えました。

今週は基本的にはドル高継続の可能性が強いものの、
日銀の介入を警戒しながらの動きとなりそうです。
ただ、あまり145円付近で停滞してしまうと、一度142円付近まで後退する可能性も出てきそうです。

ドル円の予想レンジは142円から147円です。

先週のユーロ円は上昇トレンドを継続しているものの、158円付近のレジスタンスブレイクに時間がかかっているようです。

今週は158円付近のレジスタンスをブレイクできた場合には、
160円付近までの上昇は期待できそうです。

ユーロ円の予想レンジは155円から162円です。

ポンド円も184円から185円のレジスタンスに停滞させられているものの、
ブレイクする可能性は高まっているように思います。

ポンド円の予想レンジは180円から190円です。

全般的にはドル高トレンドは継続の可能性は高そうですが、
日銀の大規模な介入があった場合には、その後の動きに
十分な注意が必要です。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/26~6/30)

先週前半は一進一退の状況でしたが、後半になると再び円安ドル高の傾向が強くなりました。

今のところ各通貨ペアとも、当面は強いレジスタンスは見つけれない為、ブレイク目標が定めずらく難しい動きとなっているようです。

今週はドル円の調整はある程度想定範囲内となりそうですが、ユーロ円やオージー円などはそろそろ大きな調整が入ってくる可能性が示唆されているように思います。

先週のドル円は前半、142円付近のレジスタンスでもたついたものの後半にはブレイクして、週末には143円台後半まで到達しています。

今週は債券価格などに大きな変動が無ければ、145円あたりまでは利益確定をこなしながら上昇していきそうな勢いです。

ドル円の予想レンジは141円から146円です。

先週のユーロは週末にユーロドルが大きく下落したため、ユーロ円も幾分調整色を見せています。

今週はこのままユーロドルが下落トレンド入りしてしまうのかどうかユーロ円も左右されそうです。

ユーロ円の予想レンジは153円から160円です。

ポンド円もポンドドルの下落状況などからも、そろそろ大きく調整する可能性が高まっているように思います。

ポンド円の予想レンジは175円から185円です。

全般的にはドル高トレンドは継続、クロス円は幾分調整が大きく入る可能性がありそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/19~6/23)

先週は木曜日早朝のFOMC、及び日銀の金利政策継続報道を受けて円安がかなり進みました。

FOMCでは今回の利上げは行われませんでした、年内2回の利上げの可能性が示唆されています。

今週は各通貨ペアともレジスタンスラインを抜けた状況です。どのタイミングで利益確定が入るかに左右されますが、全体としてはもう一段円安が進む可能性が高そうです。

先週のドル円は、141円付近のレジスタンスを木曜日早朝のFOMCを受けて一度は突破しました。

その後、139円台前半にまで引き戻されたものの、金曜日の日銀の金利政策継続報道を受けて、再び141円台後半まで上昇して、そのまま週末を迎えました。

今週は利益確定が入るタイミングに左右されることはあるものの、全体的には円安継続となりそうです。次のターゲットは145円付近あたりとなりそうです。

ドル円の予想レンジは137円から145円です。

先週のユーロ円は週末に155円を超えてそのまま終了しています。日銀の金利政策継続、ECBの利上げなどが大きな要因のようです。

今週は利益確定が入りながらも、上昇トレンド継続の可能性が高そうです。

ただ、流石に短期間での上昇速度が速いため、どこかのタイミングで、一気に利益確定が大きく入り下落する可能性もありそうです。

ユーロ円の予想レンジは150円から160円です。

ポンド円も上昇速度が加速しています。

185円あたりが次のターゲットになりそうですが、そのあたりで一度大きく利益確定が入り調整する可能性はありそうです。

ポンド円の予想レンジは175円から190円です。

全般的円安トレンドは継続する可能性は高いものの、上昇速度が早すぎる為、どこかのタイミングで一度大きく調整する可能性は考慮した方が良さそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/12~6/16)

先週は各通貨ペアごとにまちまちな動きとなりました。
ドル円、ユーロ円などは大きな動きはなく、ポンド円、オージー円などは頭一つ抜け出した上昇という状況です。

今週は木曜日の早朝のFOMCを控え、それまでは動きづらい展開となりそうです。

大半の予想は据え置きとなっていますが、サプライズはあるのか、また、パウエルFRB議長の定例会見でFRBが今後の金利についてどのような考えを持っているのか、そのあたりによっては、大きく動く可能性はありそうです。

先週のドル円は、140円付近のレジスタンスをブレイクすることができず、レンジ内の狭い範囲の動きとなりました。

今週は木曜日早朝のFOMCに大きく左右されそうです。
パウエルFRB議長の会見で、今後の利上げの可能性が示唆された場合には、140円を超えて一気に上昇する可能性もありそうです。

ドル円の予想レンジは137円から145円です。

先週のユーロ円は151円付近のレジスタンスをブレイクすることができず、狭いレンジ内での動きとなりました。

今週はユーロドルも落ち着いてきていることなどから、ドル円の動き次第では151円を超えて上昇する可能性もありそうです。

ユーロ円の予想レンジは146円から155円です。

ポンド円は週末に175円付近のレジスタンスを超えて上昇トレンドを継続しています。

今週はFOMCの状況次第では、ポンドドルが反転してポンド円も調整する可能性は考慮した方が良くかもしれません。

ポンド円の予想レンジは172円から178円です。

全般的基調としては、クロス円高が続いていますが、FOMCの状況次第では、大きくトレンドが変わる変わる可能性もあるので注意が必要です。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/5~6/9)

先週は週前半は円高、ドル安、後半は円安、ドル高という状況でした。金曜に発表された非農業部門雇用者数が予想を上回ったことが、要因のようです。

今週は良好な米国雇用統計の流れを、そのまま引き継げるかどうかのポイントとなりそうです。

ドル円が140円付近のレジスタンスを超えられるかどうか、まずは分岐点となりそうです。

先週のドル円は、木曜日まで下落傾向が続いたものの、金曜日に発表された非能郷部門雇用者数の良好な結果を受けて、一気に140円付近まで挽回しました。

今週はこのまま上昇トレンドを継続できるかどうか、まずはポイントとなりそうですが、米国雇用統計の発表で失業率は悪化しており、このあたりがどう受け止められるか、また、141円付近のレジスタンスをブレイクできるかどうかにより大きく左右されそうです。

ドル円の予想レンジは137円から145円です。

先週のユーロ円は木曜日から挽回し、週末には150円目前まで上昇してそのまま週末を迎えました。

今週は150円、151円台後半と続くレジスタンスをブレイクできるのか、そのあたりがポイントとなりそうです。

ユーロドルの下降トレンド継続していることなどから、ブレイクするには時間を要する、あるいはブレイクできずにそろそろ下降トレンド入りする可能性が高いのではないかと考えています。

ユーロ円の予想レンジは146円から155円です。

ポンド円は週末に175円台目前まで上昇しています。

テクニカル的にはこのまま上昇トレンドを継続しそうですが、ドル円、他のクロス円が調整、あるいは下降トレンド入りした場合は、このまま上昇トレンドを継続することは難しいでしょう。

ポンド円の予想レンジは170円から178円です。

全般的にはドル高円安継続の様相ですが、再び7月、8月のFOMCを見据えた動きが活発化しそうです。

金利の変動などには注意を払いたいところです。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/29~6/2)

先週は全般的にドル高が進みました。
オージー円とニュージーランドドル円はやや調整色が出ています。
今週はこのまま円安トレンド継続となるのかどうかポイントとなりそうですが、米国の債務上限引き上げ合意の報道が、どの程度影響してくるのかをまずは見極める必要がありそうです。

先週のドル円は、ほぼ一直線にドル高が進みました。
金曜日には140円台後半まで達して、そのまま週末を迎えています。
今週はこのままドル高が進む可能性が高そうですが、142円、あるいは145円あたりが調整ラインとなるのかどうかポイントとなりそうです。

ドル円の予想レンジは137円から145円です。

先週のユーロ円は150円台突破に時間がかかりましたが、週末には150円台後半まで上昇してそのまま終了しています。
今週は次のレジスタンスとなる151円台後半のレジスタンスをブレイクできるかどうかポイントとなりそうですが、ユーロドルが下降トレンド入りしていることから、少し時間がかかるかも知れません。

ユーロ円の予想レンジは146円から155円です。

ポンド円は週末に173円台後半まで達しており、頭一つ抜け出した状況です。
テクニカル的にはしばらく上昇トレンドが続くような状況ですがポンドドルが下降トレンド入りしたかのような状況が気になります。

ポンド円の予想レンジは170円から175円です。

全般的にはドル高継続の様相ですが、債務上限引き上げ合意の報道がNYダウの動きなどにもどのように影響するかも気になる所です。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/22～5/26)

先週はドル円、クロス円とも円安が進みました。
当面の間、各国の金利政策に変化は無いという見方が強まっているようです。
今週はまず、ドル円が139円手前で金曜日に下落しましたが、
利益確定終了ということで再び140円以上を目指すのか、それともここから
ある程度調整するのか、週初めの動きに注目したいところです。

先週のドル円は、月曜日から木曜日までは陽線が続き、138円後半まで
上昇しました。

その後、金曜日に利益確定が優勢となり、137円台後半で終了しました。
今週は、ここから再び140円超えを目指すのか、それともしばらく調整
となってしまうのか。週初めの動きが注目されます。
感触としては、数日は調整する可能性が強いかなどは考えています。

ドル円の予想レンジは136円から141円です。

先週のユーロ円も木曜日まで上昇し、金曜日に下落して終了しました。
150円付近のレジスタンスの強さが気になる所です。

今週はもう少し調整してから上昇するのか、早々にレジスタンスブレイクと
なるのかを早めに見極めたいところです。

150円をブレイクしても152円付近が次のレジスタンスラインになりそうなので、
上昇トレンド継続となるかは微妙なところのように思います。

ユーロ円の予想レンジは145円から152円です。

ポンド円172円付近のレジスタンスラインまで上昇していますが、
このレジスタンスは厚いように思います。

逆にこのラインをブレイクできた場合は、180円付近までの急上昇も
期待できるかもしれません。

ポンド円の予想レンジは165円から175円です。

再び円安トレンドが強くなっています。

今週、このトレンドを継続できるかどうか、今後の鍵となりそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/15～5/19)

先週はドル円は小動きな展開、クロス円は小幅下落といった状況でした。利益確定的な動きも多くなっているようです。

今週はまず、ドル円が136円を超えて上昇トレンドに乗れるのか、しばらくレンジ内の動きが続くのか、そのあたりがポイントとなりそうです。

先週のドル円は、134円から135円台後半までの狭いレンジ内での動きとなりました。

ユーロドル、ポンドドルなどではドルの買戻しが進んでいるようです。

今週は、ドル円が再び上昇トレンドにのるのか、ユーロドル、ポンドドルなどがこのままドルの買戻し継続となるのかがポイントとなりそうです。

ドル円がこのまま136円付近のレジスタンスを抜けて上昇する可能性は4割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは133円から138円です。

先週のユーロ円は木曜日には146円台前半まで下落しました。テクニカル的には下降トレンド入りした可能性が強まっています。

今週は146円付近のサポートラインで支えきれぬかどうかポイントとなりそうです。

割り込んでしまった場合には、140円付近までの急落も考慮した方が良くかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは140円から149円です。

ポンド円も一度167円台まで下落しましたが、週末には169円付近まで戻ってきています。

今週はここから再び172円付近のレジスタンスブレイクを狙えるかどうかポイントとなりそうです。

ポンド円の予想レンジは165円から173円です。

クロス円の勢いがやや弱まっているようです。

円安トレンドに大きな変化があるのか、今週の動きがポイントとなりそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/8~5/12)

先週は週明け高く始まった分、ドル円、ユーロ円、ポンド円などは下落しましたが、オージー円、カナダドル円などの資源通貨は幾分上昇しました。

FOMCに対する警戒感などから、木曜日までは円高が進みました。金曜日の米国雇用統計が良好な結果だったため、NY市場終了時までにはある程度円安が進んで終了しています。

今週はFOMCなどの今後の利上げに対するスタンスと、米国雇用統計の良好な結果がどのように市場に織り込まれていくかがポイントとなりそうです。

先週のドル円は、週明けこそ137円台で高く始まったものの、その後FOMCに対する警戒感などから、木曜日には133円台前半まで下落しました。

金曜日の米国雇用統計が良好な結果であったため、135円台まで上昇する場面もありましたが、NY市場終了時は134円台後半となっています。

今週は、6月の利上げが据え置きとなる見方が幾分強くなっていることと、雇用統計の良好な結果をどのように東京市場などが判断するかが、まずはポイントとなりそうです。

ドル円の予想レンジは130円から136円です。

先週のユーロ円は週初めに151円台まで到達したものの、木曜日までは下落し金曜日は米国雇用統計の影響から148円台を回復してそのまま週末を迎えています。

今週もユーロドルが1.11付近のレジスタンスをブレイクできてるか否かがポイントとなりそうです。

ブレイクできた場合は再び150円以上への上昇も期待できそうです。

ユーロ円の予想レンジは143円から152円です。

ポンド円も一気に172円台を付けた後下落しましたが、金曜日には回復し、170円台で週末を迎えました。

ポンドドルがレジスタンスをブレイクした為、ポンド円も再び175円付近を目指す展開も期待できるかもしれません。

ポンド円の予想レンジは165円から175円です。

米国、欧州、英国の今後の利上げスタンスにやや違いが出てきたように思います。このあたりがどのように影響するのかをまずは見極める必要があります。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/1~5/5)

先週は金曜日に円安が大きく進みました。
日銀植田総裁の緩和政策継続姿勢が鮮明になったことが影響しているようです。
今週はFOMCや米国雇用統計発表を控える中、通常であれば週初めは小動きな展開となる所ですが、ボラティリティが大きくなっており、場合によっては大きく荒れる展開も想定したほうが良いかもしれません。

先週のドル円は、木曜日まではさえない展開が続いたものの、金曜日には136円台前半まで大きく上昇しました。

今後も日米の金利差は縮まらないという見方が強まっているようです。
今週はまず、次のターゲットとなる138円付近のレジスタンスまで一気に円安が進むのかがポイントとなりそうですが、一時的な利益確定的な動きはあるにせよ、レジスタンスライン到達は時間の問題のように思います。
また、FOMC、米国雇用統計の結果次第では、140円を目指す展開となることも想定しておいた方が良いでしょう。

ドル円の予想レンジは133円から140円です。

先週のユーロ円はECBの利上げに対する強気な姿勢から、ユーロ高が加速して150円台に到達しています。
今週はユーロドルが1.11付近のレジスタンスをブレイクできていない事や150円を超えたユーロ円の次のターゲットが鮮明にならないことなどから、一時的にせよ、利益確定売りが優勢になる可能性もあるのではないかと、考えています。

ユーロ円の予想レンジは147円から153円です。

ポンド円も一気に171円台まで上昇しています。
次のターゲットは172円台前半となりそうですが、ブレイクトライ後、あるいはブレイクトライ前にも、一度調整する可能性を想定しておいた方が良いでしょう。

ポンド円の予想レンジは165円から173円です。

GW中にFOMC、米国雇用統計を控え、今週は大きく動く可能性も視野に入れておく必要はあるように思います。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/24~4/28)

先週のドル円はほぼ横ばい、クロス円もあまり大きな動きにはなりませんでしたが、景気動向から今後、利上げ継続されるか否かを探る動きが続いています。

今週もドル円、クロス円とも大きく動きづらい状況が続きそうです。

木曜日の米国GDPやコアPCEの発表では、多少の動きがあるかもしれません。

先週のドル円は、133円台前半から135円台前半までのレンジ内での動きとなりました。景気動向指数の発表から、今後の利上げ状況を占う動きが続いているようです。

今週も先週と同じような動きが継続する可能性が高そうです。

ただ、再び135円台前半のレジスタンスラインのブレイクに失敗した場合には、一度130円付近まで後退する可能性はありそうです。

ドル円の予想レンジは130円から138円です。

先週のユーロ円は146円前半から147円後半までのレンジ内での動きとなりました。148円付近のレジスタンスに阻まれているようです。

今週は148円付近のレジスタンスをブレイクできない場合には、一度、145円付近まで後退する可能性が出てきそうです。

ユーロ円の予想レンジは145円から150円です。

ポンド円は168円付近のレジスタンスに苦戦して、金曜日には一度165円台前半まで後退しました。

このまま調整終了となり、再びレジスタンスブレイクとなれば、170円付近を目指す展開も期待できるかもしれません。

ポンド円の予想レンジは165円から170円です。

NYダウが34,500ドル付近のレジスタンスブレイクにトライしていますが、ブレイクできずに失速した場合、ドル円なども一度大きく調整する可能性が出てくるように思います。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/17~4/21)

先週はドル円、ポンド円はほぼ横ばい、ユーロ円は上昇というまちまちな結果となりました。日銀の今後の方針に対する関心は高いようです。

今週もユーロ円以外は大きく動きづらい週となりそうです。一方、ユーロドルが1.1付近のレジスタンスラインをブレイクした可能性が高いため、こちらは上昇トレンドに乗る可能性はありそうです。

先週のドル円は、132円から134円付近までの狭いレンジでの動きとなりました。しばらくは景気後退局面入りするとの見方が強まっているため、これ以上の金利上昇は難しいとの見方が多くなっているようです。

今週はまず、134円から135円付近のレジスタンスをブレイクして140円を目指す展開となるかどうか注目されますが、今週は少し難しいようにも思います。

ドル円の予想レンジは130円から135円です。

先週のユーロ円は145円付近のレジスタンスをブレイクして147円付近まで上昇しました。テクニカル的には上昇トレンド入りした形となっています。

今週は次の148円付近のレジスタンスが厚いものとなっているため、すんなりブレイクできる可能性は少ないように思います。

またユーロドルが完全に1.1付近のレジスタンスをブレイクして上昇トレンドに乗れるかどうかポイントとなりそうです。

ユーロ円の予想レンジは140円から149円です。

ポンド円は168円付近のレジスタンスに苦戦しています。ユーロポンドも上昇傾向にあるため、168円付近のレジスタンスを早急にブレイクする事は少し難しいように思います。

ポンド円の予想レンジは160円から169円です。

NYダウが34,500ドル付近のレジスタンスに差し掛かっています。レジスタンスをブレイクできずに下落した場合は、再びドル売り傾向が強くなる状況も想定しておいた方が良いでしょう。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/10~4/14)

先週は狭いレンジ内での動きが続いたのち、金曜日の米国雇用統計の発表を受けて各通貨ペアとも上昇の兆しを見せながら週末を迎える形となりました。

米国雇用統計はほぼ予想通りの結果であったものの、5月も利上げするとの見方が強まりドル買い、円売り方向にやや進む状況となりました。

今週はまず、このドル買い状況ががどのあたりまで進むのかを見極める必要があります。

先週のドル円は、一度130円台前半まで下落したものの、米国雇用統計の結果を受けて132円台まで上昇しそのまま週末を迎えています。

今週はまず、どのあたりまでドル高が続くのかを見極める必要があります。

134円から135円付近にレジスタンスラインがありますが、このラインをブレイクできるのか。今週ブレイクできる可能性は4割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは127円から138円です。

先週のユーロ円は145円付近のレジスタンスを超えられずに、一度142円台まで後退したものの、週末には144円台まで回復してそのまま週末を迎えています。

今週は再び、145円付近のレジスタンスブレイクに向かうかどうかは注目されませんが、ユーロドルがそろそろ下落兆候を見せていることが気にかかります。

1.05付近をターゲットに下落した場合、ユーロ円も再び140円付近まで下落する可能性も考慮した方が良さそうです。

ユーロ円の予想レンジは140円から146円です。

ポンド円はやや頭打ち傾向が出てきています。

このまま166円付近のレジスタンスを超えられまい場合、一度160円付近まで下落する可能性が強まりそうです。

ポンド円の予想レンジは158円から167円です。

米国雇用の結果から5月利上げの予測が強まったものの、やや景気の減速感も強まっているため、その先の景気対策に関心が移っていく可能性もありそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/3~4/7)

先週はドル円は130円付近からのリバウンド、ユーロ円、ポンド円などはリバウンドから金曜日にはレジスタンスが越えられず、早くも調整の気配が出てきています。

今週はまず、このままドル円が135円以上まで上昇できるかどうか注目されますが週末に米国雇用時統計を控え、それまでは狭いレンジ内での動きとなる可能性が高いかもしれません

先週のドル円は、130円付近を起点として132円台まで上昇したものの、その後は足踏み状態が続いています。

今週も週末に米国雇用統計の発表を控え、前半は様子見状態となる可能性が高いように思います。

雇用統計の結果が予想よりも良いもの、あるいは悪いものであっても、結果によりドル買いになるのか、それともドル売りになるのかを判断することは少し難しいかもしれません。

ドル円の予想レンジは127円から138円です。

先週のユーロ円は、140円付近からのリバウンドで145円超えまで上昇したものの、ユーロドルが1.1付近のレジスタンスを超えられず、早くも調整入りの様相を呈しているようです。

今週は、142円付近まで一度調整する可能性もありそうですが、米国雇用統計発表後の動きは予想しづらいものとなりそうです。

ユーロ円の予想レンジは138円から147円です。

ポンド円も上昇トレンドにはあるものの、166円付近のレジスタンスに阻まれている状況です。一度160円付近まで調整する可能性も考慮する必要はありそうです。

ポンド円の予想レンジは158円から167円です。

米国の雇用状況が改善した場合でも、銀行の破綻などに対する懸念事項は払拭しきれていない為、今後の動きに対する予測は難しい状況は続きそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(3/27~3/31)

先週のFOMC、FRB議長会見は、ほぼ予想されていた通りの展開となりそれほど大きな動きはありませんでした。

ドル円はじり安、クロス円はほぼ横ばいといった状況が続いています。

今週はまず、このままドル円がじり安展開を継続するのか、それともリバウンド展開となるのか、そのあたりが注目されそうです。

先週のドル円は、FOMC、FRB議長会見に大きなサプライズはなく、じり安展開が続きました。

今週は130円付近、あるいは127円付近のサポートラインからリバウンドすることができるのかがまずは注目されます。

完全にサポートラインを割り込んでしまった場合には、120円付近までの急落の可能性も考慮する必要がありそうです。

ドル円の予想レンジは127円から135円です。

先週のユーロ円は、138円から144円付近までの方向感のない動きが継続しました。今後のECBやFRBの動きに注目が集まっているようです。

今週は、クレディ・スイス問題がEC圏に波及しないようであれば、145円付近までの回復もある程度期待できるかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円も幾分軟調な展開が続いています。157円付近のサポートラインが幾分弱くなっているようにも思います。

ポンド円の予想レンジは155円から166円です。

CPI上昇→利上げ→ドル買いといった展開がそろそろ終わりを迎えようとしているようにも思います。

今週の展開として、ドルのじり安継続となるのか、レンジ内での動きとなるのかが、4月からの動きのある程度参考になりそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(3/20～3/24)

先週はSVB,クレディ・スイス問題に大きく揺す振られる展開となりました。SVBファイナンシャルの破産申請、ファースト・リパブリック株の急落、クレディ・スイスとの取引制限など、まだまだ市場の動揺は終息していないように思います。

今週は、FOMCでの利上げが観測が幾分後退する中、米ドルを中心とした週初めの動きにまずは注目したいところです。

先週のドル円は132円から135円あたりまでの動きが続いたのち、週末に131円台まで下落してそのままNY市場を終了しました。地方銀行の破綻に対する警戒感が強くなっているようです。

今週は23日早朝にFOMCを控え、FRBの対応、今後の利上げペースに修正は入るのかなどに関心が集まっているようです。

ドル円の予想レンジは127円から135円です。

先週のユーロ円は、水曜日に145円付近から140円付近まで急落しましたが、週末にはなんとか140円台をキープしてそのまま終了しています。

今週は、まずクレディ・スイス問題の行方が注目されますが、テクニカル的には137円付近までの下落も考慮した方が良くかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円も幾分軟調な展開となっています。155円付近まで下落の可能性も、考慮した方が良くかもしれません。

ポンド円の予想レンジは155円から166円です。

木曜日のFOMC、FRB議長定例会見で、SVB問題とインフレ抑制について、今後どのように対応するのか。

注目度が高まっているように思います

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(3/13~3/17)

先週はFRBの会見と米国雇用統計の発表に大きく動かされる週となりました。
今週は、米国失業率悪化の影響がどの程度広がるのかを
まずは見極める必要があります。

先週のドル円は大きく動く週となりました。
水曜日のFRB議長会見後、利上げに対する強気な見方が大勢となり
一時、138円付近までドル円は上昇しました。
金曜日の米国雇用統計では失業率が予想より悪化したため、
3月のFOMCでの利上げ幅が25bpとの見方が強まり、
ドル売り優勢で135円付近まで下落しそのまま週末を迎えました。

今週は米国失業率悪化の影響がどの程度広がるかをまずは見極める必要が
ありそうですが、米国の経済指標の良し悪しに一喜一憂する状況が、
しばらく続くかもしれません。

ドル円の予想レンジは130円から138円です。

先週のユーロ円は、145円付近のレジスタンスで足踏み状態が続き金曜日には143円台
145円超えとなりましたが、週末にかけて再び下落しました。

今週は再び、145円超えを狙えるような状況となるかどうか注目されますが、
ユーロドルがリバウンドから1.1を目指すような状況となれば、
ユーロ円上昇の可能性もあるように思います。

ユーロ円の予想レンジは140円から148円です。

ポンド円は163円付近で、方向感を見出しづらい状況が続いています。
ポンドドルが1.2以上をキープできれば、再び170円を目指す展開も
期待できるかもしれません

ポンド円の予想レンジは155円から170円です。

米国失業率悪化からのドル売りが、どの程度で終息するのか。
3/23のFOMCまでは、経済指標に一喜一憂して大きく動く展開も
考慮しておいた方が良くかもしれません。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/27～3/3)

先週はドル円、クロス円ともほぼ横ばいの週となりました。

レジスタンスブレイクにはまだ要因不足という状況です。

今週は、週末に米国雇用統計を控え、前半は抑え気味の動きとなりそうです。

雇用統計発表後、予想よりも良好な数字であればレジスタンスブレイクへの期待が高まります。

先週のドル円は137円付近のレジスタンスが意外に強く、なかなかブレイクできない状況が続きました。

今週は米国雇用統計の発表までこの状況が続きそうですが、テクニカル的にはこのまま下落を示唆するオシレーターも出てきています。

ドル円の予想レンジは133円から143円です。

先週のユーロは、ユーロドルが下げ止まり傾向を見せており、その影響からユーロ円も一度は145円超えとなりましたが、週末にかけて再び下落しました。

今週は、ユーロドルがこのままりバウンドから上昇トレンド入りできるようであれば、ユーロ円も150円を目指す展開が期待できそうです。しかしながらテクニカル的にはこのまま失速して140円付近まで下落する可能性が高まっています。

ユーロ円の予想レンジは140円から148円です。

ポンド円は166円付近のレジスタンスをブレイクできず横ばい状態が続いています。このままこの状況が長引いた場合、155円付近まで下落する可能性が高まりそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から170円です。

ドル高円安がもう一段進むのかどうか、週末の米国雇用統計の発表で大きく左右される可能性はありそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/27~3/3)

先週はドル高がもう一段進む週となりました。
一方、ユーロ円、ポンド円などは木曜日あたりまでの下落分を金曜日に取り戻した形となっています。
今週は、ドルがどこまで上昇できるかがポイントとなりそうです。
ドル円であれば138円付近のレジスタンスをブレイクできるかどうか、
その状況により、その後の展開が大きく変わりそうです。

先週のドル円は木曜日あたりまでほぼ横ばいで推移していたものの、
金曜日に一気に136円中盤まで上昇し、そのままNY市場終了を迎えています。
今週は138円付近のレジスタンスをブレイクできるかどうかにより、今後の展開が大きく変わり
そうですが、今週ブレイクできる可能性は4割程度と考えています。
ブレイクできた場合には、次のターゲットは143円付近となりそうです。

ドル円の予想レンジは133円から143円です。

先週のユーロ円は、金曜日に144円付近まで上昇しそのまま週末を迎えました。
今週は、145円超えが期待されますが、ユーロドルが危うい状況にあるため
今週ブレイクすることは少し難しいかもしれません。
逆にユーロドルが1.05を割ってしまった場合にはユーロ円も急落に備える必要がありそうです。

ユーロ円の予想レンジは140円から146円です。

ポンド円は162円付近のレジスタンスをブレイクして上昇トレンドをキープしている状況です。
ただ、ポンドドルが1.18付近のサポートラインを完全に割り込んでしまった場合には、
155円付近までの急落の可能性も想定しておく必要はありそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から166円です。

ドル高円安が進んでいる状況にはありますが、何かのきっかけで大きく反転する状況も
想定しておいた方が良いでしょう。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/20~2/24)

先週はドル高円安が進む中、金曜日にはドル円が135円を超える場面もありましたが、その後、失速して134円前半で週末を迎えました。

その他の通貨ペアは小幅上昇、あるいは方向感のない動きとまちまちな状況でした。

今週は、ドル円が135円、ユーロ円が144円を超えて上昇トレンドに乗れるかどうかのポイントとなりそうですが、ドル円で138円付近まで、ユーロ円で145円付近まで上昇する余地はありそうです。

先週のドル円は金曜日に一度135円以上にまで上昇しましたがその後失速し、134円付近で週末を迎えました。

今週は135円付近のレジスタンスをブレイクして140円を目指す展開が期待されますが、138円付近にもレジスタンスが存在するため、すんなりと上昇トレンドに乗ることはいささか難しいかもしれません。

ドル円の予想レンジは130円から138円です。

先週のユーロ円は、週末に143.67円と今年に入ってから最高値を付けています。このまま145円から146円付近までの上昇が期待されます。

今週は、ユーロ円の上昇に関してユーロドルが1.06付近から下落しないということが必要条件となりそうです。

逆に1.05を割ってしまった場合にはユーロ円も急落に備える必要がありそうです。

ユーロ円の予想レンジは140円から146円です。

ポンド円は162円付近のレジスタンスをブレイクできずに膠着状態が続いています。

ただ、ポンドドルが1.2を完全に割り込んでしまった場合には、こちらも急落の可能性が出てきそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

全般的にはドル高円安がもう一段進む可能性はありますが、神経質な状況は継続しているため、今後の金融政策報道に大きく左右される状況は続きそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/13~2/17)

先週は金曜日夕方、次期日銀総裁が植田氏との報道をうけて一時的に1.5円以上円高に振れる場面もありましたが、概ねは横ばいといった動きでした。

今週は、ドル円は130円付近の底値確認からのリバウンドが幾分期待される状況ではありますが、他の通貨ペアはあまり大きな動を想定することは期待外れに終わるかもしれません。

先週のドル円は金曜日の次期日銀総裁の報道を受けて、一時的に円高に振れる場面もありましたが全体的には130円から133円の間レンジ内での動きとなりました。

今週はテクニカル的には130円付近での底値確認から、一気にリバウンドを期待したいところですが、135円付近のレジスタンスも意外に厚いようで、それ以上を目指すには大きな材料が必要なように思います。

ドル円の予想レンジは127円から136円です。

先週のユーロは、ユーロドルがなんとか1.067付近で留まっているものの、安心できない状況です。このままこのラインを割ってしまった場合、1.05付近まで下落する可能性が強まります。

今週、ユーロドルがサポート割れを起こした場合には、ユーロ円もその動きに合わせて137円付近まで下落する可能性が強まるように思います。

ユーロ円の予想レンジは137円から143円です。

ポンド円は狭いレンジ内での方向感のない動きが続いています。もうしばらく同じような動きが続く可能性が幾分強いように思います。

ポンド円の予想レンジは155円から162円です。

次期日銀総裁報道が、今週どの程度影響するかは難しいところですが、追加報道がされない限り大きく材料視される可能性はまだ低いかもしれません。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/6~2/10)

先週ドル円は金曜日の米国雇用統計の好結果を受けて上昇、クロス円はまちまちな結果となりました。木曜日に発表されたFOMC政策金利が、前回の0.5引き上げから0.25に下げられたため、ドル安円高が進むこととなりましたが、金曜日に発表された米国雇用統計の良好な結果を受けて、再び、ドル高円安方向に戻ってきています。

今週は、米国雇用統計の発表後のドル高円安の流れがどのあたりまで拡大するのか、まずは見極める必要がありそうです。

先週のドル円は木曜日のFOMC政策金利発表後、ドル安円高が少し進みましたが金曜日に発表された米国雇用統計の予想外の良好な結果を受けて、ドル高円安の流れに大きく引き戻されました。

今週は米国雇用統計の発表後のドル高円安の流れがどの程度まで拡大するのかをまずは見極める必要がありそうですが、135円あるいは138円あたりのレジスタンスをブレイクできるかがポイントとなりそうです。

ドル円の予想レンジは125円から138円です。

先週のユーロ円は木曜日に140円付近まで下落したものの、米国雇用統計の好結果を受けて週末には141円台後半まで戻ってきています。

今週はここからもう一段の上昇を期待したいところですが、ユーロドルが下降トレンド入りの可能性が強いため、143円付近のレジスタンスを今週ブレイクすることは少し難しいのではないかと考えています。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円は金曜日に少し戻してはいるものの、下降トレンド入り目前となっています。ポンドドルが1.2を割るようなことがあれば一気に150円付近まで下落する可能性も浮上してくるようになります。

ポンド円の予想レンジは150円から165円です。

米国雇用統計の良好な結果からのドル高円安の流れですが、大きくトレンドが反転するまで行くかどうか、週明けの動きに注目です。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

七

※ 今週のアウトルック(1/30~2/3)

先週はドル円、クロス円とも狭いレンジ内での動きとなりました。
材料不足といった状況のようです。

今週は週末に米国雇用統計の発表を控えて、前半は小動き、発表後はある程度動きがありそうです。

ただ、サプライズ的な数値でも今後の動きを予測することはなかなか難しいかもしれません。

先週のドル円は130円を挟んで小動きな展開となりました。
131円付近がレジスタンスとなっているようです。

今週は週末に米国雇用統計の発表を控え、発表までは小動きな展開となりそうですが、雇用統計の数値が予想を上回った場合、素直に円高方向へ動く判断してよいのかどうか、難しいところなようにも思います。

ドル円の予想レンジは125円から135円です。

先週のユーロ円は142円付近のレジスタンスがなかなか強いようで、小動きな展開となりました。
今週は米国雇用統計の発表をキッカケに、143円超えを目指したい所ですがユーロドルが1.1付近のレジスタンスを超えられるかどうかポイントとなりそうです。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円も162円付近のレジスタンスに阻まれて、小動きな展開が続きました。
週末の米国雇用統計の発表が何かのきっかけになる可能性はありそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

日銀総裁の発言から、金融緩和継続で円高はそろそろ終了という声も聞かれるようです。
米国雇用統計の発表後の動きに注目したいところです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(1/23~1/27)

先週はドル円はほぼ横ばい、クロス円はやや上昇という状況でした。英国などは大幅な利上げをしばらく継続する可能性が高そうですが、米国の今後の利上げについては見方が分かれています。

今週もドル円はほぼ横ばいクロス円はユーロドル、ポンドドルなどの状況に左右されそうです。レジスタンス、サポートブレイクなどの可能性も一応考慮しておく必要はありそうです。

先週のドル円は16日に127.2円を付けてこちらが下値確認という形となり、その後は127円から131円付近での動きとなりました。

今週は再び127円以下を目指す場面や132円以上に上昇しようとする展開もありそうですが、何かサプライズがない限り、レンジ内の動きとなる可能性が高そうです。

ドル円の予想レンジは125円から135円です。

先週のユーロ円は137円付近をサポートラインとして、143円以上を目指そうとする動きが活発化しました。

今週はユーロドルが1.1付近のレジスタンスを超えられるかどうかポイントとなりそうですが、米国、ユーロ圏の今後の利上げ動向を示唆するような要人発言には注意が必要です。

ユーロ円の予想レンジは137円から144円です。

ポンド円上昇トレンド入り目前といった状況ですが、今後の展開はポンドドルが1.25付近のレジスタンスをブレイクできるかによって大きく左右されそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

相変わらず、今後の金利動向やCPIなどの発表から目が離せない状況ですが、再び原油先物価格が上昇トレンド入りしてきている点にも注意なように思います。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(1/16~1/20)

先週は米国CPIの発表を受けて、ドル売りが進みました。
ただ、ユーロドル、ポンドドルなどはレジスタンスに阻まれてそれほど大きな上昇とはなっていない為、円高との見方の方が強いかもしれません。

今週はまず、ドル安円高がもう一段進むのかどうか注目されますが、週末には短期米国債価格が再び上昇していることなどから、一旦は落ち着く可能性が強いかもしれません。

先週のドル円はCPIの発表を受けて、金曜日に127円台まで下落し、127円台のままNY市場を終了しました。

今週は130円付近のレジスタンスを完全に割り込んでしまったことから、125円付近まで下落する可能性が浮上しています。

ただ、サポートをブレイクした後、大きく急落とはなっておらず、下落ペースがいささか鈍化するあるいは一度リバウンドする可能性もあるように思います。

ドル円の予想レンジは125円から135円です。

先週のユーロ円は後半、米国CPI発表を受けて一気に下落し、138円台中盤で週末を迎えました。
今週はもう少し下落する可能性は残るものの、すぐに137円付近のサポートを割り込んでしまう可能性は、いささか低いかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは137円から144円です。

ポンド円も先週後半下落し、156円付近で推移していますが、今週155円付近のサポートを割り込んでしまう可能性はいささか低いように思います。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

今週は先週進んだ円高が、どのあたりで落ち着くのかを、まずは見極める必要があります。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(1/3~1/6)

先週中盤あたりまでは、ある程度円安に向かう展開でしたが、後半は一転して円高が進みました。

2023年に入ってから、サポートラインの厚さを試すような展開が続いています。今週は各通貨ペアとも、サポートラインをブレイクに行く展開が警戒されます。1/4の東京市場開始時には注意が必要のように思います。

先週のドル円は、12/28頃には134円付近まで上昇しましたが、週後半には一転して下落となり、131円台前半で年末を迎えました。

2023年に入ってもサポートラインを試すような展開は続き、なんとか130円台をキープしている状況です。

今週は週末に米国雇用統計の発表を控えています。発表を待たずに130円を割ってしまう可能性もあるように思います。

また、130円を完全に割ってしまった場合には、125円付近までの急落を警戒する必要があるように思います。

ドル円の予想レンジは125円から135円です。

先週のユーロ円も、木曜日あたりから一転して円高の展開となり、140円付近で年末を迎えました。

2023年に入っても138円付近のサポートラインを試すような展開が続いています。

今週はまず、138円以上をキープできるかどうか注目されますが、ユーロドルの上値が重いことからなどからも138円を割り込んでしまう可能性が、やや高いかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは135円から144円です。

ポンド円も155円付近のサポートラインを割り込む可能性が高まっています。こちらのサポートはあまり強くないようで、150円付近まで下落が止まらない可能性も考慮する必要はありそうです。

ポンド円の予想レンジは150円から165円です。

昨年末から一転して円高に対する警戒感が強まっています。ストップロス巻き込んだ急落には十分な注意が必要です。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(12/26～12/30)

先週は、火曜日の黒田日銀総裁の長期金利上限0.5%発言をキッカケに、大きく円高に傾きました。

その後幾分は戻していますが、大きくは動きづらい状況が続いています。

今週は、実質的には新年度の取引となりため、取引量が増える事が予想されますが、どちらへも動きづらい状況は続きそうです。

先週のドル円は、黒田日銀総裁の発言をキッカケに火曜日には130円中盤まで下落しました。

その後、132円台後半までは戻ってきていますが、それ以上は上昇しづらい状況となっています。

今週はある程度取引量が戻ることは期待できますが、大きく動きづらい状況は続きそうです。

ドル円の予想レンジは130円から135円です。

先週のユーロ円は、火曜日に黒田総裁の発言をキッカケに138円台まで一時的に下落し、その後戻して141円台で週末を迎えました。

今週は、ユーロドルの上値が重いことから上昇しづらい状況にありますが、135円を目指すような展開にもなりづらいように思います。

ユーロ円の予想レンジは137円から144円です。

ポンド円はポンドドルのピークアウトの気配からも、160円を割り込んで150円付近を目指す可能性も幾分あるように思います。

ポンド円の予想レンジは150円から165円です。

今週も材料不足などから大きく動きづらい展開となりそうですが、年末年始の薄商いを狙った仕掛け的な動きには注意が必要です。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----12月19日----- 2022年

※ 今週のアウトルック(12/19~12/23)

先週は、通貨ペアごとにややまちまちな状況となりました。
ドル円は134円から137円付近でほぼ横ばい、ユーロ円はやや上昇、
ポンド円はやや下落といった状況です。

今週は、取引量も少ないものと予想され、ほぼ横ばいとなる可能性が高そうですが、
薄商いを狙った仕掛け的な動きには注意が必要のように思います。

先週のドル円は、136円を挟んでほぼ横ばいの動きとなりました。
FOMCがほぼ予想通りとなり、サプライズ的な動きはありませんでした。
その為、どちらへも動きづらい状況が続いています。

今週も薄商いの中、大きく動きづらい状況が続きそうです。
ただ、薄商いを狙った仕掛け的な動きには注意が必要です。

ドル円の予想レンジは135円から139円です。

先週のユーロ円は、木曜日に145円付近のレジスタンスブレイクに成功すると、
146円台後半まで一気に上昇しました。その後週末にかけて下落し、
145円以下まで割り込んで週末を迎えています。

今週は、再び147円付近まで上昇する可能性はありそうですが
148円後半のレジスタンスをブレイクする可能性は少ないと思います。

ユーロ円の予想レンジは140円から149円です。

ポンド円は先週末に165円台まで割り込んでいますが、165円付近のサポートライン
に支えられる可能性は高そうです。

ポンド円の予想レンジは165円から170円です。

各国とも政策金利の発表を終え、来年までは動きづらい状況が続きそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----12月12日----- 2022年

※ 今週のアウトルック(12/12~12/16)

先週は、月曜日にリバウンドからの円安が進みましたが、その後は小動きな展開となりました。

まだ、どちらへも動きづらい状況が続いているようです。

今週は、クリスマス休暇に向けた手じまい売りが出始める時期です。一度大きく円安(あるいは円高)に大きく傾く可能性も考慮した方が良いかもしれません。

先週のドル円は、月曜日にドル高が進んだもののその後は小動きな展開となりました。140円を超えた円安はなかなか難しいように思います。

今週はそろそろクリスマス休暇に向けたポジション調整が出始める頃です。一時的に大きく傾く可能性も考慮した方が良さそうです。ただ、140円付近までドル高が進んだ場合は、絶好の売り場となる可能性もありそうです。

ドル円の予想レンジは130円から141円です。

先週のユーロ円は、140円台から145円付近まで戻ってきています。ただ、145円付近のレジスタンスは厚いようで苦戦している様子です。

今週は、このレジスタンスを超えられるかどうか焦点となりそうですが、大きな材料となる要人発言や仕掛け的な動きが出ない限り、今週このラインをブレイクすることは難しいように思います。

ユーロ円の予想レンジは140円から145円です。

ポンド円も少しずつ円安が進み、167円台中盤まで上昇しています。ただ、170円付近のレジスタンスは強くなっているようです。今週ブレイクすることは難しいかもしれません。

ポンド円の予想レンジは165円から171円です。

いくら円安が進んでいるようにも見受けられますが、今週はまた違った動きとなる可能性を考慮した方が良いでしょうと思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(12/5~12/9)

先週は、ドル円、クロス円とも全般的には円高が進んだ週となりました。週末に発表された米国雇用統計は予想外に良好な結果となり、一時的にドル高が進みましたが、その後NY市場後半にかけて下落し134円台前半で終了しています。

今週は米国雇用統計の好結果をアジア市場などでどうとらえられるのか、米国利上げ幅縮小時期が来年にずれ込むという見方をどうとらえるのか。そのあたりがまずは焦点となりそうです。

先週のドル円は、下落基調が続き木曜日には134円台まで下落しました。金曜日に発表された米国雇用統計が良好な結果となり、利上げ幅縮小時期が来年にずれ込むとの思惑から、136円付近まで上昇しましたが、その後下落し134円台前半でNY市場を終了しています。

今週は、米国雇用統計の好結果を受けて、ドル安基調に変化が現れるかどうかはまずは注目されますが、来週以降のFOMCを待ってからという見方が強まる可能性はありそうです。

ドル円の予想レンジは130円から137円です。

先週のユーロは、週末には141円台まで下落しました。一方、ユーロドルは週末にレジスタンスラインだった1.05を超えてきたことから、更なる上昇が期待できそうです。

今週は、ユーロドルは上昇、ユーロ円は下落という複雑な動きとなりそうですが、一方的にドル売り円買いが続くとも考えずらいように思います。

ユーロ円の予想レンジは140円から145円です。

ポンドは、ポンドドルが上昇トレンドを崩していない為、ポンド円の下落は小幅なものとなっています。ただ163円付近のレジスタンスを抜けてしまうと一気に160円付近まで下落する可能性はありそうです。

ポンド円の予想レンジは160円から170円です。

全般的には米ドル売りが進んでいますが、今後の米国金利政策に大きな注目が集まっていることは確かなようです。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----11月28日----- 2022年

※ 今週のアウトルック(11/28~12/2)

先週は、週初めこそ少し円安が進みましたが、その後は小動きな展開が続きました。材料視される要因が不足していたようです。

今週は週末に米国雇用統計の発表を控え、動きづらい展開となりそうですが発表後も解釈が分かれた場合、その後の動きが難しいものとなりそうです。

先週のドル円は、月曜日に142円台まで上昇しましたがその後下降に転じ木曜日には137円台まで下落し、139円台前半でNY市場を終了しています。

今週は、138円付近のサポートラインの強さが試される展開となりそうですが、このラインをブレイクした場合は135円付近まで下落する可能性も出てきそうです。

ドル円の予想レンジは135円から145円です。

先週のユーロは、145円を挟んだレンジ的な動きとなりました。ユーロドルの上昇が一服していることが影響しているようです。

今週は、ユーロドルが1.05付近のレジスタンスをブレイクできるかどうかにか大きく左右されそうです。

ブレイクできた場合には、148円付近を目指す可能性も出てきそうです。

ユーロ円の予想レンジは142円から148円です。

ポンド円は上昇トレンドを継続しながらも169円付近のレジスタンスに阻まれている状況です。このままブレイクできなければ、再び160円を目指す展開に反転する可能性が強まりそうです。

ポンド円の予想レンジは162円から172円です。

全般的には米ドル高終息への動きが継続しそうですが、金利に関する要人発言には注意が必要です。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----11月21日----- 2022年

※ 今週のアウトルック(11/21~11/25)

先週は、ドル円はほぼ横ばい、ユーロ円、ポンド円などは少しだけ上昇とゆう状況でした。

12月の米国の利上げ幅について、大半が0.5%を予想しているようです。

今週は、新しい材料に乏しいことから、大きな動きにはなりづらいように思います。

先週のドル円は、140円を挟んだ小幅な動きが継続しました。材料待ちの状態が続いているようです。

今週は、12月の利上げ幅は0.5%でほぼ織り込まれつつある為、その予想を覆すようなコメントが出された場合には、大きく反応するかもしれません

ドル円の予想レンジは135円から145円です。

先週のユーロは、145円付近のレジスタンスに阻まれた動きとなりました。なかなかレジスタンスをブレイクすることは難しいようです。

今週は、このまま145円付近のレジスタンスをブレイクすることができなければ、一度、142円付近まで後退する可能性が出てきそうです。

ユーロ円の予想レンジは142円から148円です。

ポンド円は小幅ながらも上昇を継続し、週末には167円付近のまで到達しました。このまま170円付近まで上昇する可能性は幾分あるように思います。

ポンド円の予想レンジは162円から170円です。

米国、ユーロ、英国では、そろそろ利上げスタンスに違いが出てきているようです。このあたりを敏感にとらえたレートの動きに注目が集まっているように思います。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(11/7~11/11)

先週、ドル円は狭いレンジ内の動き、ユーロドル、ポンドドルなどは木曜日まで下落しましたが、金曜日の米国雇用統計の発表を受けて買い戻されました。

米国雇用統計の非農業部門雇用者数は予想よりも改善されましたが、失業率が予想よりも上昇していたことが嫌気されたようです。

今週は、米ドルの独歩高が解消されていくのかどうか注目されますが、オーストラリアやカナダなど、利上げペースを緩める国も出てきており、米国の金利動向に関する発言には大きく左右されそうです。

先週のドル円は、149円台に乗せることができないまま、金曜の米国雇用統計の発表を受けて146円台まで下落しました。

149円付近が強いレジスタンスになっているようです。

今週は、このまま145円付近のサポートラインを割り込んで下落し行くのかどうかまずは注目されますが、このサポートラインは意外に厚く、割り込んでしまうにはもう少し時間がかかりそうな状況です。

ドル円の予想レンジは144円から150円です。

先週のユーロ円は、木曜日に144円台まで下落しましたが米国雇用統計の発表を受けて、146円台まで回復してそのまま週末を迎えました。

今週も、144円付近のサポートを割ることや、148.5円付近のレジスタンスを超えることは難しそうですが、ECB要人の発言には注意が必要のように思います。

ユーロ円の予想レンジは143円から149円です。

ポンド円は週明け早々から下落して、週後半には1度165円付近まで下落しました。新政権への期待感は早々に終わってしまったようです。しばらくはレンジ内での動きが続きそうです。

ポンド円の予想レンジは164円から172円です。

市場の関心はインフレ終息後に大きく傾きかけているようです。仕掛け的なドル売りが出てくる可能性もあるように思います。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(10/31~11/4)

先週は、ドル円、クロス円ともに狭いレンジ内での動きとなりました。
ドル買いトレンドにいささかブレーキがかかっているようです。

日銀の覆面介入への警戒感と、そろそろ市場の関心がインフレがある程度落ち着いた後へと向いているようです。

今週は、FOMCなどにサプライズ的な動きがない限り、週末の米国の雇用統計発表に向けて、結果を探りながらの動きとなりそうですが、発表後もよほど大きなサプライズがない限り、一方向に動き出す可能性は少ないように思います。

先週のドル円は、木曜日に一度144円台まで下落して、その後回復し週末には147円台中盤で終了しています。

日銀の覆面介入の影響がいささか出ているようです。

今週は、日銀の介入に対する警戒感と、インフレ終息後の対応を予測した動きとなりそうですが、週末の米国雇用統計に対する市場の反応にはやはり注意する必要はありそうです。

ドル円の予想レンジは140円から152円です。

先週のユーロはユーロ円、ユーロドルとも、比較的小動きな展開が続きました。
週末には147円目前でNY市場を終了しています。

今週も、大きくは動きづらい展開となりそうです。
150円付近のレジスタンスをブレイクするには、何か大きなキッカケが必要なように思います。

ユーロ円の予想レンジは145円から150円です。

ポンド円は週末に170円台に乗せてきました。
新政権への期待感から、もうしばらくポンドの買戻しは続くように思います。

ポンド円の予想レンジは165円から175円です。

ドル高トレンドに変化が出てきているようです。
ドル売りが今週も続くようであれば、トレンドの変化ということを強く念頭に置く必要がありそうです。

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(10/24~10/28)

先週、ドル円は週末のNY市場開始後に152円台目前まで進みましたが、一気に146円付近まで下落しました。

日銀の覆面介入が入ったとの見方が出ています。

一方、ユーロドル、ポンドドルなどは膠着状態となっています。

今週はまず、市場の関心が12月のFOMCでの利上げ幅が0.75なのか0.5なのかに向いていること、FRBの中でそろそろ利上げ幅を減速するべきとの意見が出始めていることなどが、円売りにどう影響するのかが、注目されそうです。

先週のドル円は、週末に152円目前まで円安が進みましたが、NY市場開始後、一気に146円付近まで下落しました。

日銀の覆面介入との見方が出ています。

その後、148円台中盤まで回復する場面もありましたが、147円台後半でNY市場を終了しています。

今週は、12月のFOMCでの利上げ幅に注目が集まる中、FRBの今後の利上げ方針についてのコメントなどについても注目が集まりそうです。

また、日銀の介入に関する警戒感も強くなっており、152円を超えて155円を目指す展開というの、なかなか難しいように思います。

ドル円の予想レンジは145円から153円です。

先週のユーロはユーロ円上昇、ユーロドル膠着状態という状況になりました。ユーロ円も金曜日のNY市場開始後は、145円台まで戻しています。

今週は、日銀の介入警戒感が強い中、円売りを試す場面もありそうですが、米国の12月以降の利上げ幅も考慮に入れながら展開となりそうです。

場合によっては、ユーロドルが1.025付近まで戻す状況も考えられるかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは140円から150円です。

ポンドも英国の政治的混乱が続く中、ポンドドルが膠着状態となり、ポンド円も170円を超えての上昇は難しくなっているようです。

ポンド円の予想レンジは160円から170円です。

市場の関心が12月のFOMCでの利上げ幅に集まる中、FRB内でも今後の方針について、意見が分かれてきているようです。

そろそろ、ドル独歩高終息の始まりという可能性も出てきているように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----10月17日----- 2022年

※ 今週のアウトルック(10/17~10/21)

先週、木曜日に発表された米国CPIの結果を受けて、ドル円は金曜日には148円後半まで上昇し、そのまま週末を迎えました。

一方、ユーロドル、ポンドドルの下落は一服といった状況です。

今週はまず、ドル円が節目となる150円をクリアできるのか、またクリアできた場合更なる上昇は見込めるのか、日銀の介入はあるのか、そのあたりが焦点となりそうです。

先週のドル円は、146円を超えるといったんは足踏みする場面もありましたが、木曜日に発表された米国CPIの結果に裏付けされる形となり、

金曜日には148円台後半まで到達してそのままNY市場を終了しています。

今週は、150円到達、あるいはクリアが焦点となりそうですが、東京市場では日銀の介入を警戒して、様子を見ながらの動きとなりそうです。一気に上昇するのは、ロンドン、NY市場タイムの可能性が高そうです。

ドル円の予想レンジは140円から152円です。

先週のユーロは、ユーロ円、ユーロドルともにほとんど動きのない状況が続いています。

ユーロドルの0.97付近のサポートラインが強く作用しているようです。

今週は、キッカケを探してどちらかへ動き出したいところですが、状況的にはユーロドルの上昇という可能性が少し強いかもしれません、

ユーロ円の予想レンジは140円から147円です。

ポンドもポンドドルのサポートラインが強くなっているようです。ポンド円も170円を目指す展開になる可能性もありそうです。

ポンド円の予想レンジは160円から170円です。

このままの状況が続けば、円独歩安の可能性が強まりそうです。

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----10月11日----- 2022年

※ 今週のアウトルック(10/11~10/14)

先週は、ドル円は小幅な動き、クロス円は下落基調という状況でした。
週末の米国雇用統計は予想よりも良好な結果となりました。

通常であればNYダウは上昇、ドルは下落という展開になりそうですが、
NYダウは下落し、ドルの買戻しが先行しました。

雇用統計が良好→景気後退懸念は減少→利上げ継続
という市場心理からのように思われます。

今週はまず、ドル円が9/22の145.9円を超えられるかどうか、
まずは焦点となりそうです。

先週のドル円は、143円台前半から145円台までの、非常に狭いレンジ内の
動きとなりました。

週末の米国雇用統計の良好な結果を受けて、再び146円超えにトライする動きが
活発化しているようです。

今週は、週明け早々夕刻には145円後半まで上昇しています。
146円を超えるのも時間の問題かもしれません。

146円を超えた場合、次のターゲットは150円付近となりそうです。

ドル円の予想レンジは140円から150円です。

先週のユーロは、ユーロドルが再び0.97付近まで下落したため、
ユーロ円も141円台まで下落しました

今週は、ユーロドルが0.95割れを目指す展開を継続するかどうかで大きく変わりそうです。
テクニカル的にはユーロドル下落の流れを継続する可能性が高そうです。

ユーロ円も140円割れとなる状況を想定しておいた方が良いかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは135円から145円です。

ポンド円もポンドドルの下落の流れにより、161円付近まで下落しています。
160円割れとなる可能性が強いかもかもしれません。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

市場心理としては米国CPIとFRBの今後の方針について、
注目が集まっているように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(10/3～10/7)

先週、ドル円は小幅な動きな、ユーロ、ポンドなどはリバウンドからの上昇、という展開になりました。

今週はまず、ドル円が日銀の介入が警戒されるラインを超えていけるかどうか、再び介入があるのかが、まずはポイントとなりそうです。

先週のドル円は、142円から144円台後半までの狭いレンジ内の動きとなりました。週末のNYタイムでは後半、144.8円付近にへばりつくような形となり、そなままNY市場を終了しています。

今週はまず、144.8円をいつ超えてくるのか、145円を超えた場合に再び日銀の介入があるのかが、まずは注目されます。

また、週末に米国雇用統計の発表を控えていることから、動きにくい展開となる事も予想されます。

ドル円の予想レンジは140円から150円です。

先週のユーロ円はリバウンド的な動きとなり、週末に141円台後半まで上昇しました。今週は、ユーロドルが回復傾向にあることからある程度の上昇は期待できますが、日銀の介入があった場合には、再び振出しに戻るような形となるので、注意が必要です。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円もポンドドルのリバウンドから急速に上昇しています。今週は165円付近までは期待したいところですが、日銀の介入があった場合には、再び150円付近まで下落する可能性もあるので注意が必要です。

ポンド円の予想レンジは150円から165円です。

週末の米国雇用統計の発表で予想を下回った場合、ドル買いの流れは変わるのか、そのあたりにも注意する必要がありそうです。

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----9月26日----- 2022年

※ 今週のアウトルック(9/26~9/30)

先週は木曜日にドル円が145.9円まで到達すると、日本政府、日銀による市場介入がありました。一度は140円付近まで下落したものの、週末には143円台前半まで戻しています。

今週は介入警戒感のなか、ボーダーラインを探るような展開となりそうですが、しばらくは神経質な展開が続きそうです。

先週のドル円は、木曜日に145.9円をつけると、日本政府、日銀による市場介入のため一時140円付近まで下落しました。

一気に5円以上下落したため、大規模な介入だったと思われます。

今週は介入警戒感の中、ボーダーラインを探るような展開となりそうです。先週末までは143.5円付近がリミットとなっているようですが、このラインを超えてきた場合、再び介入の動きはあるのか、それとももう少し上のラインまで上昇することは可能なのか、そのあたりの探り合いが続きそうです。

ドル円の予想レンジは140円から150円です。

先週のユーロ円は日本政府、日銀による市場介入後、138円台まで下落し、週末も139円付近で終了しています。

今週ユーロ円は、介入警戒感とユーロドルのサポート割れから下落を継続する可能性が高いように思いますが、サポートラインの固さの確認や、要人発言などから一気に反発する可能性も考慮した方が良いでしょうと思います。

ユーロ円の予想レンジは135円から145円です。

ポンド円は、160円台を割り込むと週末には155円台中盤まで下落して、そのまま終了しています。

今週はまず155円付近で下げ止まることができるかどうか、ポイントとなりそうです。

ポンド円の予想レンジは150円から160円です。

円売りに介入の警戒感が出てきたため、ユーロドル、ポンドドルの下落傾向が強まっています。

また、ポンド円などの乱高下などには注意が必要のように思います

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(9/20~9/23)

先週は先々週の米国CPI発表を要因とする上昇からの調整が入った形となり、横ばいからある程度下降となった通貨ペアが多かったようです。

今週は調整色がメインだった流れから、再びドル高円安への流れへと変わっていくのかをまずは確認したいところです。

先週のドル円は、143円付近での小刻みな動きとなり、方向感が見いだせない状態が続きました。

今週は今後の米国利上げ状況が読めない中、どの程度までドル買いが進むのか、あるいはそろそろドル買いは休止へと向かうのか、そのあたりの読みあいとなる可能性が高そうです。

145円を超えられれば、150円まで進む可能性は十分ありそうです。

ドル円の予想レンジは140円から150円です。

先週のユーロ円もほぼ横ばい状態が続きました。ユーロドルもバリティ付近での攻防が続いています。

今週は、どちらかに抜けることができれば150円、あるいは140円付近まで進む可能性はありそうですが、材料が不足している中、影響力のある要人発言などがない限り、動きづらい状況がしばらく続きそうです。

ユーロ円の予想レンジは140円から150円です。

ポンドは、ポンドドルの下げ止まり感が見いだせず、ポンド円の下落が続いています。

このままポンドドルが下げ止まらなければ、ポンド円も160円付近まで下落してしまう可能性が高そうです。

ポンド円の予想レンジは160円から165円です。

いささかドル高円安の流れに陰りが出ている気配もあります。NYダウ下落に対する警戒感など、市場の関心はインフレ抑制から今後の景気動向に移ってきているのかもしれませんが。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(9/12~9/16)

先週は各通貨ペアとも、大きく円安が進みました。
火曜日に各通貨ペアとも、このところのレジスタンスをブレイクすると一気に円安が進みました。その後は膠着状態が続き、金曜日にはやや戻してそのまま週末を迎えています。

今週は、火曜日に発表される米国CPIにやや過敏に反応するかもしれません。その後も経済指標の発表には注意が必要です。

先週のドル円は、水曜日には145円目前の144.99円までドル高が進みました。想定したより速いペースのように思います。

今週はCPIなどの発表が気になる所ですが、経済指標の結果をもとに右往左往する日々が続きそうです。

市場センチメント次第では、次のターゲット150円に向かうこともありそうです。

ドル円の予想レンジは140円から150円です。

先週のユーロはユーロドルがなんとかパリティ付近で留まっているためユーロ円もドル円の上昇に合わせて、145円付近まで上昇しました。

今週は、このままユーロドルが安定すれば、145円をブレイクする可能性が高まりそうです。

ただ、ECBの動きやユーロ圏の経済指標の発表には注意したほうが良さそうです。

ユーロ円の予想レンジは140円から150円です。

ポンド円も上昇していますが、ポンドドルの下落継続が気になります。英国も物価上昇が激しくなっているのは確かなのですが、BOEの利上げペースが追い付いていないという市場判断になっているようです。

ポンド円の予想レンジは160円から170円です。

再びどこまで円安が進むかが話題となっていますが、米国やEUの物価上昇が沈静化しつつあることを示唆するような経済指標の発表には、十分な注意が必要です。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(9/5~9/9)

先週ドル円、ユーロ円は上昇、ポンド円、オージー円などはほとんど変わらずといった状況でした。

週末には米国雇用統計の良好な結果を受けて、ドル円は一時140.8円付近まで上昇しましたが、その後戻して140.25円付近でNY市場を終了しています。

今週は、米国雇用統計の良好な結果をどこまで市場が織り込んでいたかをまずは確認する必要があるようです。

先週のドル円はドル高基調の中、週末の米国雇用統計の良好な結果を受けて140円台後半まで一時的に上昇しましたが、その後140円台前半まで戻してそのままNY市場を終了しています。

今週はどこまで米国雇用統計の良好な結果を市場が織り込んでいたかを、まずは確認したいところですが、債券価格が大きく上昇するようなことがない限り、140円以上をどんどん更新していくような展開は、なかなか難しいかもしれません。

ドル円の予想レンジは139円から142円です。

先週のユーロ円は上昇基調の中、週末には140円付近まで上昇しました。一方、ユーロドルは0.995付近のまま週末を迎えています。

今週はまず、ユーロドルがどのあたりで下げ止まりとなるかを確認したいところですが、これといったサポートラインも見当たらない為、しばらくは難しいかもしれません。

ユーロドルの動向にもよりますが、ユーロ円の140円を超えた高値更新はあまり期待できないように思います。

ユーロ円の予想レンジは135円から142円です。

ポンドもポンドドルの下落が加速しつつあります。1.14を割ってしまうと危険な状態かもしれません。ポンド円も160円を割った場合、急落の可能性がありそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から163円です。

ドル円の高値更新はゆっくりとしたペースになるように思いますが、

ユーロドル、ポンドドルなどの急落の可能性は考慮する必要がありそうです。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(8/29~9/2)

先週はドル高基調の中、金曜日のパウエルFRB議長の発言を受けて、もう一段ドル高が進みました。

今週はこの流れをどのあたりまで継続するのかを、まずは見極める必要があります。

先週のドル円は、パウエルFRB議長発言後、137円台中盤までドル高が進みました。NY市場終わり間際に、137.5円を突破してそのまま終了しています。

今週はこのまま、再び140円超えを狙う展開となるのかがまずは注目されますが、138円、139円といった節目を、滞りなくクリアできるかによって、その後の展開が大きく変わってくるようにも思います。

ドル円の予想レンジは135円から142円です。

先週のユーロ円は、ドル高円安の流れに乗り、137円台のまま週末を迎えています。一方、ユーロドルが再びパリティを割り込んで、週末には0.996付近まで低下しています。

今週はまず、ユーロドルが0.99を割り込んで安値更新を狙う展開になってしまうのかが、注目されます。

ユーロドルの下落が加速した場合は、ユーロ円も135円割れとなり130円付近が次のターゲットとなる可能性が高まりそうです。

ユーロ円の予想レンジは132円から139.5円です。

ポンドもポンドドルが週末に1.174付近となり、安値更新の可能性が高まっています。ポンドドルがここから急落した場合には、ポンド円も160円割れ、さらには155円を目指す展開となる可能性も否定できないように思います。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

FRBのインフレ鎮静化に対する認識が変わるまで、ドル高はしばらく進みそうです。特にユーロドル、ポンドドルなどの動きには十分な注意が必要です。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(8/22~8/26)

先週はFOMC議事録公開などで、米国利上げ継続に前向きな姿勢が確認され、ドル高が進みました。

クロス円は大半が小さな動きとなっています。

今週はどのあたりまでドル高が進むのかに、まずは注目が集まりそうです。サポートラインギリギリにある、EUR/USDやGBP/USDにまずは注意したいところです。

先週のドル円はFOMCの議事録公開などを受けて、米国利上げにポジティブな見方が支配的となり、137円付近まで上昇しそのまま週末を迎えました。

今週はこのまま140円付近まで上昇して、再び140円超えを狙う展開となるのがまずは注目されますが、9月の利上げ幅がある程度織り込まれつつある今の状況では、今週の140円超えはいささか難しいかもしれません。

ドル円の予想レンジは135円から141円です。

先週のユーロ円は、135円付近からリバウンドして、週末には137円中盤付近まで上昇してそのまま終了しています。

今週はまず、再びロシアからの天然ガスパイプラインの停止などの状況も踏まえ、ユーロドルがパリティ付近にあることが気になります。

ユーロドルが1.0割れが大きく進むような状況になった場合には、ユーロ円も135円割れとなる可能性を考慮したほうが良さそうです。

ユーロ円の予想レンジは132円から139.5円です。

ポンドもポンドドルが1.176付近のサポートランを割り込みそうな状況です。このサポートラインを割り込んだ場合には、ポンド円も160円割れを目指す勢いが優勢となりそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

再び米ドル高の傾向が強くなっていますが、ユーロドル、ポンドドルなどのテクニカル要因、サポートライン割れからの急落には十分な注意が必要です。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(8/15~8/19)

先週は水曜日に発表された米国CPIの予想外の低下を受けて、ドルが売られました。ドル安、円高方向へ幾分進んでいます。

今週はドル高、ドル安のどちらへも大きく動きづらい展開となる可能性が高そうです。FOMCまでは様子見スタンスが大勢かもしれません。

先週のドル円は水曜日にCPIの低下を受けて、132円台前半まで下落しました。その後、金曜日には133円台半ばまで戻してそのまま週末を迎えています。

今週は、木曜日早朝のFOMC議事録公開待ちとなります。前半はレンジ内での取引、後半はFOMC次第という状況のように思います。FOMCで「インフレ鎮静化には至っていない、当面利上げは継続」というスタンスを確認できれば、再びドル高円安となる可能性が高まりそうです。

ドル円の予想レンジは132円から139.5円です。

先週のユーロ円は、水曜日の米国CPI低下を受けて下落、その後もさえない展開が続いています。

今週は、ユーロ圏の不安要素が増えていることなどからも、再び135円割れを目指す展開も出てくるかもしれません。

ただ、今週は大きく下落する可能性は少ないように思います。

ユーロ円の予想レンジは134円から139.5円です。

ポンド円も164円付近のレジスタンスを超えられず、再び下落傾向が幾分強くなっているようです。

今週は、サプライズがない限りはレンジ内での動きとなる可能性が高そうです。

ポンド円の予想レンジは160円から165円です。

米国CPI低下を受けて、ドル高、円安トレンドからフラットな動きとなっています。FOMCでサプライズが出ない限り、しばらくはレンジ内での動きになる可能性が強いかもかもしれません。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(8/8~8/12)

先週は、金曜日の米国雇用統計が予想をはるかに上回る好結果となり、ドル高、円安が大きく進みました。

米国債も大幅に下落しています。

今週はまず、米国雇用統計からのドル高、円安の流れがどこまで波及するかを見極める必要があります。

先週のドル円は、金曜日の米国雇用統計が予想をはるかに上回る好結果となり一気に135円付近まで上昇しました。

9月のFOMCでの利上げ幅75bpとなる可能性が高まっているようです。

今週はまず、このドル高、円安の流れがどこまで進むのかを見極めたいところです。135円から135.5円付近にあるレジスタンスを超えてきた場合、次のターゲットは137.5円付近となりそうですが、上げ下げを繰り返しながらの荒い動きとなる可能性を考慮しておいたおいた方が良くもかもしれません。

140円超えの可能性については、今週は少し難しいかもしれません。

ドル円の予想レンジは133円から139.5円です。

先週のユーロ円は米国雇用統計発表後の円安の流れに乗り、137円台中盤まで上昇してそのまま週末を迎えています。

今週は、ある程度の上昇は期待できるように思いますが、ユーロドルが再び1.0以下を目指す可能性もあるため、140円を超えての円安は難しいかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは135円から139.5円です。

ポンド円も163円付近まで上昇して週末を迎えています。

今週は、165円付近あたりまでの上昇を期待したいところですが、ポンドドルが幾分下落傾向にあり、166円中盤のレジスタンスを超えた上昇はあまり期待できないかも知れません。

ポンド円の予想レンジは162円から166.5円です。

米国雇用統計の予想外の好結果を受けて、ドル高、円安トレンド復活を

期待したいところですが、CPIの動向なども踏まえ、全般的には荒い動きとなる可能性が高いように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(8/1~8/5)

先週前半は、ドル円、クロス円とも幾分円安、ドル高トレンドだったのですが、木曜日のFOMC、FRB議長会見後に大きくドル安、円高が進みました。利上げ幅+1%や利上げ継続期間に対する期待感が大きかったようです。

今週はまず、売られすぎ感からの買戻しが期待されますが、意外に買戻しが少なかった場合には、さらなる下落を警戒する必要があるかもしれません。

先週のドル円は、FOMC後に大きく下落しました。FOMCに対する失望感が大きかったようです。

今週はまず、ある程度のリバウンドを期待したいところですが、サポートラインが130円から131円付近であるため、若干の下げ余地があります。一度このラインまで後退する可能性も考慮する必要があるように思います。

また、その後再び140円超えを目指す展開が期待できるかについては、週末に米国雇用統計を控えていることもあり、今週は難しいように思います。

ドル円の予想レンジは130円から138円です。

先週のユーロ円はFOMCの発表後、一度135円台まで下落し、136円台前半で週末を迎えました。

今週は、ユーロドルが1.03付近のレジスタンスに強力に阻まれていることなどから、ドル円の動向に大きく左右されそうです。

状況次第では、135円割れの可能性も考慮したほうが良いかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは132円から139円です。

ポンド円も162円前半まで下落して週末を迎えています。今週、ここからリバウンドする可能性はあるようには思いますが、167円以上を目指す展開は少し難しいように思います。

ポンド円の予想レンジは160円から167円です。

週末の米国雇用統計を控え、前半は動きづらい展開となりそうですが、結果が予想と大きく食い違った場合、ドル売りには注意が必要のように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(7/25~7/29)

先週は、ドル円は下落、クロス円は前半上昇、後半は下落とまちまちな結果となりました。ドル高トレンドに少し変化が生じているようです。

今週はドル円が136円付近からリバウンドできるのか、それとも1度134円中盤付近まで後退してしまうのか、まずはこのあたりが注目されそうです。

先週のドル円は、月曜日から小幅ではありますが下げ基調が続きました。金曜日のNY市場では一度135円台まで下落しています

140円付近のレジスタンスラインは意外に強いように思います。

今週は、136円付近からリバウンドできるかどうかはまず注目されます。万が一、135円を大きく割り込んでしまった場合には、132円付近まで下落する可能性も考慮する必要がありそうです。

ドル円の予想レンジは131円から140円です。

先週のユーロ円は一度142円付近まで上昇しましたが、その後後退し、週末のNY市場では139円付近まで下落してそのまま終了しています。

ユーロドルも1.023以上の上昇がなかなか難しいようです。

今週のユーロ円は、ユーロドルの停滞もあり、ドル円が下落した場合には136円付近までの下落の可能性も考慮する必要がありそうです。

ユーロ円の予想レンジは136円から145円です。

ポンド円も163円付近まで下落して週末を迎えています。ポンドドルも1.2付近のレジスタンス越えがなかなか難しいようで、再び、1.17以下を目指すような展開になった場合には、ポンド円の急落にも備える必要があるように思います。

ポンド円の予想レンジは160円から169円です。

週中にFOMCを控え、前半は動きづらい展開となりそうですが、FRBのインフレの今後に関する見解の変化には、十分な注意が必要です。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(7/19~7/22)

先週は、ドル円、クロス円とも円安がもう一段進んだ週となりました。
特に各国のCPIの発表には敏感になっているようです。

今週はドル円が高値を更新したことで、140円付近のレジスタンスをいつブレイクできるかに
まずは注目が集まりそうです。

先週のドル円は、木曜日に139.39円に到達し、高値を更新しています。
次回の利上げ幅が0.75ということがかなり織り込まれてきているように思います。

今週は、140円突破ということが次の目標となり、どのタイミングで突破できるかに
注目が集まっていますが、インフレ鎮静化の時期にも関心が集まっているようで、
早期に沈静化できる見込みが強まれば、一辺倒の円安ドル高にも
歯止めがかかる可能性はあるかもしれません。

ドル円の予想レンジは136円から142円です。

先週のユーロ円は円安が進み、週末には140円付近に到達しています。
ユーロドルが一度パリティに到達した達成感からか、リバウンド気味に推移しています。

今週のユーロ円は、テクニカル的には145円付近までの上昇が期待できるところです。
ただ、米国の債券価格の動向により、ドル円が円高に向かった場合には、
ユーロ円も下落する可能性があるように思います。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円も165円を超えてきており、テクニカル的には再び170円超えを狙える
状況ですが、ドル円の動き次第では下落する可能性も考慮する必要はありそうです。

ポンド円の予想レンジは160円から169円です。

ドル円は140円超えを目前にして、今後の利上げ状況を判断するうえで債券価格や
CPIの動向に敏感になっています。

大きな変化があった場合には急落する可能性も考慮するべきかもしれません。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(7/11~7/15)

先週、ドル円は狭いレンジ内でのみみ合い、ユーロ円、ポンド円は調整と通貨ペアごとにまちまちの動きとなりました。

週末に発表された米国雇用統計は予想を上回る好結果となり、円安がやや進みました。

今週は米国雇用統計の好結果を受けて、アジア市場がどのような反応を見せるのか、まずはそのあたりが注目されます。

先週のドル円は、134円台後半から135円台での狭いレンジ内での動きが続いたのち、金曜日に発表された米国雇用統計の好結果を受けて、136円台に突入しました。

今週は、この流れを継続して137円台に突入することができるのか、まずはそのあたりが注目されます。

今週、137円台に到達できる可能性は6割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは134円から138円です。

先週のユーロ円は、金曜日に一度136円台まで下落しました。

その後、NY市場の終わりにかけて上昇し、138円台後半をもって終了しています。

今週のユーロ円は、136円台で底値確認感があることと、ユーロドルの売られすぎ感からある程度の巻き返しが期待されます。

早期に140円台を回復できれば、再び145円付近のレジスタンスラインに挑む展開も、期待できるかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円も底値確認感とポンドドル売られすぎ感からの再浮上が期待されます。

再び168円付近のレジスタンスブレイクへ向かう展開もあるやもしれません。

ポンド円の予想レンジは160円から169円です。

米国雇用統計の好結果を受けて、調整気味のドル高円安トレンドが本格再開となるのか。

まずは月曜日の東京市場、ロンドン市場の動きが注目されます。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/27~7/1)

先週は週足として、ドル円はかろうじて上昇、クロス円は大きく下落した通貨ペアも多くありました。

円安、ドル高トレンドの変化と考えるのはまだ早いように思いますが、長めの調整期に入った可能性はあるように思います。

今週も、サポートラインやレジスタンスラインを意識するより、米国長期債利回りの動向や要人発言、経済指標に振り回される可能性が高そうです。

先週のドル円は、水曜日に一度137円台をつけてその後135円台前半まで失速しました。経済指標の悪化や、米国長期債の利回り低下などが原因のようです。

今週は、週末に米国雇用統計の発表を控え、動きにくい展開となりそうです。雇用統計の発表の結果、景気のリセッションが明確となった場合、ドルが一気に下落する可能性もあるように思います。

ドル円の予想レンジは130円から140円です。

先週のユーロ円は、一度144円台まで上昇しましたが週末にかけて下落し、141円付近で終了しています。

円高の影響もありますが、ユーロドルが再び1.03付近のサポート割れを目指している可能性があることが気になります。

今週のユーロ円は、138円から140円付近のサポートラインを守れるかどうかのポイントとなりそうです。

更にはユーロドルが1.03付近のサポートを割り込んでしまった場合には、急落の可能性も考慮する必要がありそうです。

ユーロ円の予想レンジは135円から146円です。

ポンド円も本格的な調整局面に入ってきているようです。160円から168円付近までのレンジでしばらく推移する可能性強まっています。

ポンド円の予想レンジは160円から168円です。

金利差から景気の動向に市場の関心が変わってきています。

米国雇用統計の悪化で、市場心理が冷え込んだ場合、ドル高円安トレンドも一気に変わる可能性がありますので注意が必要です。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/27~7/1)

先週は概ね円安の流れは変わらないものの、レジスタンスラインに阻まれて一時調整局面に入った通貨ペアも多かったようです。

今週も日銀、FRB、ECBなどの要人発言、各国経済指標、米国国債、日本国債の利回りなどに敏感に反応しそうです。

先週のドル円は、水曜日に136.7円まで上昇しましたがその後134円台前半まで後退し金曜日には135円台前半まで回復して、そのまま週末を迎えました。

米国国債利回りなどに敏感に反応しているようです。

今週は、再び136.7円の高値ブレイクに向かう可能性がやや高いように思いますが、米国国債利回りや今後の利上げスタンスにかかわる要人発言、経済指標などには十分な注意が必要です。

ドル円の予想レンジは130円から140円です。

先週のユーロ円は、週中に144円台まで上昇しましたが木曜日には141円台前半まで下落し、金曜日には142円台後半まで戻してそのまま週末を迎えました。

今週のユーロ円は、もう一度145円付近のレジスタンスラインに向かう可能性が高いように思いますが、今週ブレイクできる可能性は6割程度と考えています。

ユーロ円の予想レンジは137円から148円です。

ポンド円もやや調整局面に入っています。

168円付近のレジスタンスはやや厚いようで、今後も難航する可能性があります。今週ブレイクできる可能性は3割程度と考えておいた方が良いでしょう。

ポンド円の予想レンジは160円から170円です。

先週金曜日にNYダウが31,000ドル台中盤まで大きく反発しましたが、この流れを今週も引き継げるかどうかは、微妙なラインのように思います。

NYダウの上昇、下降が為替に与える影響について、場面により解釈が大きく変わります。このあたりについても注意が必要なように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/20~6/24)

先週は週中、水曜日、木曜日と円高となりましたが、金曜日に大きくリバウンドしました。今週は日銀、FRB、ECBなどの今後の利上げスタンスを受けて市場がどのような反応を示すか。円安、ドル高トレンド継続のようには思いますが、調整ポイントを探りながらの展開になる可能性が高いように思います。

先週のドル円は、パウエルFRB議長の今後の利上げペース、黒田日銀総裁の量的緩和継続方針などを消化して、金曜日終了時には週初め付近の135円あたりでそのまま週末を迎えています。

今週は、このまま135.5円付近のレジスタンスをブレイクして更なる高値を目指す可能性がやや高いように思いますが、調整がどのように入るのかを探りながらの展開になるようにも思います。

ドル円の予想レンジは132円から140円です。

先週のユーロ円は、木曜日に一時137円台まで下落しましたが、週末には141円台後半まで回復してそのまま週末を迎えています。ユーロドルの1.03付近のサポートライン割れを目指す展開が影響しているようです。

今週もユーロ円は、ユーロドルの状況を確認しながらの展開となりそうですが、ECB要人などによる今後の利上げスタンスに関する発言や、145円付近のレジスタンスラインでの攻防には注意が必要です。

ユーロ円の予想レンジは137円から147円です。

ポンド円も木曜日に160円付近まで下落しましたが、今後の利上げスタンスの発表を受けて、165円付近まで上昇してそのまま週末を迎えています。こちら1.2割れを目指すポンドドルの動きに左右されそうですが再び170円を目指す展開は期待できそうです。

ポンド円の予想レンジは160円から170円です。

NYダウが30,000ドル割れのまま週末を迎えて、軟調な動きが継続しています。このまま、下落を継続した場合、今後のFRBの利上げスタンスに影響が出るのか、

そのあたりにも注意が必要のように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/13~6/17)

先週前半は各通貨ペアとも概ね円安が進み、後半は米ドル独歩高の様相が強くなりました。木曜日、金曜日とEUR/USD、GBP/USDともに下落しています。

今週は、ドル円が135円付近のレジスタンスをいつ突破できるのかにより、全体的な流れも少し変わりそうです、円安か、ドル独歩高か。ドル円とEUR/USD、GBP/USDなどの動きもつかむ必要がありそうです

先週のドル円は、131円付近から135円付近まで一気に上昇しました。週後半こそ、135円付近のレジスタンスに阻まれて停滞気味となりましたが、ドル買い、円売りの強さがうかがえます。

今週は、米国債利回りの動きにも左右されそうですが、135円付近のレジスタンスをブレイクするのは時間の問題かもしれません。

ドル円の予想レンジは132円から140円です。

先週のユーロ円は、水曜日に145円付近まで一気に上昇しましたが、後半は下落して141円台前半まで下落してそのまま週末を迎えています。

今週のユーロ円は、調整終了ということで再び145円付近のレジスタンスブレイクに向かうのか、それとも一度140円を割り込んでもう一段調整するのかがポイントとなりそうです。ユーロドルが再び1.05付近まで下落しています。ここからリバウンドできるかどうかにも大きく左右されそうです。

ユーロ円の予想レンジは137円から147円です。

ポンド円も週中に170円付近のレジスタンスブレイクに向かいましたが、週末には165円付近まで下落しています。

ここからリバウンドできるのか、もう一段の調整があるのかが注目されます。

ポンド円の予想レンジは162円から175円です。

米ドル独歩高の様相がやや強くなっています。今週、調整なしでドル高が進むかどうかにより、全体的な通貨ペアのトレンドにも影響がありそうです。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(6/6~6/10)

先週は、各通貨ペアとも概ね円安が進みました。
各国、インフレ抑制のための利上げ継続観測が強まっているためのようです。

週末には、米国雇用統計の非農業部門雇用者数が予想を上回り、
このところの最高値付近で週末を迎えた通貨ペアが多くありました。

今週は、この流れを継続できるかどうか注目されますが、
利上げ継続を阻むような大きなニュースがない限り、
週初めから高値を更新する可能性がやや強いように思います。

先週のドル円は、週初めから円安の流れとなりました。
週末の良好な米国雇用統計の結果を受けて、このところの最高値付近まで上昇し、
そのまま週末を迎えています。

今週は、利上げ継続観測からの米国債利回りの上昇を受けて、円安がさらに進む可能性が
強くなってきています。

週初めにこのところの最高値をブレイクした場合には、135円付近まで上昇する可能性も
考慮する必要があるように思います。

ドル円の予想レンジは128円から135円です。

先週のユーロ円は、円安の流れに乗り140円を超えてそのままNY市場を終了しています。
ユーロドルは1.075付近のレジスタンスに阻まれてやや停滞状態です。

今週のユーロ円は、このまま円安の流れに乗り145円付近までの上昇も考えて良さそうです。
ただ、ウクライナ情勢の大きな変化には注意が必要です。

ユーロ円の予想レンジは137円から145円です。

ポンド円も円安の流れに乗り165円付近まで上昇していますが、
ポンドドルの弱含みが続いているため、165円を突破するにはやや時間がかかるかもしれません。

ポンド円の予想レンジは157円から167円です。

NYダウは米国雇用統計の結果を受けて、下落して終了しています。
債券価格の上昇により、株から債券へのシフトがもう一段進むのか、
週初めの動きに注目が集まりそうです。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/30~6/3)

先週は、狭いレンジ内での動きの中、ドル円はやや下降気味、クロス円はやや上昇基調といった状況でした。

今週は、ドル円がサポートをキープできるか、クロス円はレジスタンスを抜けられるかがポイントとなりそうです。

先週のドル円は、火曜日に126円台前半まで下落しました。その後もなんとかサポートラインに支えられている状況です。

ユーロドル、ポンドドルなども上昇トレンド入りした可能性が強く、ドル売り傾向がやや強くなっています。

今週は、このまま126円付近のサポートラインをキープできるかどうかポイントとなりそうですが、完全に割り込んでしまった場合には125円付近までの下落は考えられそうです。

ドル円の予想レンジは125円から130円です。

先週のユーロは上昇基調が強くなっています。特にユーロドルはしばらく上昇基調が続きそうです。

今週ユーロ円は、137円付近のレジスタンスを抜けられるかどうかポイントとなりそうですが、抜けられた場合には140円付近までの上昇が期待できそうです。

ユーロ円の予想レンジは132円から140円です。

ポンド円もポンドドルの巻き返しから上昇基調が強くなっています。162円付近のレジスタンスを抜けられれば、165円付近までの上昇も期待できそうです。

ポンド円の予想レンジは155円から165円です。

NYダウも下値を確認した形となり、強いリバウンドを見せています。利上げに関する懸念が一步後退した形となり、ドル円も調整が終了すれば再び上昇トレンド入りとなる可能性もありそうです。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/16~5/20)

先週はドル円は膠着状態、クロス円は軒並み下落といった状況でした。
ドル高という状況に変化はないのですが、円に対しては調整色がやや強くなっています。
今週もドル高は継続しそうですが、円に対してはレジスタンスラインを突破できるかどうか
課題となりそうです。

先週のドル円は130円付近で膠着状態が続いたのち、木曜日には一時127円台まで下落
金曜日には129円台まで戻してそのままNY市場を終了しています。
NYダウ下落による金利の不透明感がやや重しになっているようです。
今週もドル高は継続しそうですが、ドル円がレジスタンスラインである131円付近を
突破できるかどうかにより、その後の展開が大きく変わりそうです。
今週突破できる可能性は3割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは127円から133円です。

先週の木曜日にユーロドルが1.05付近のサポートラインを完全に割り込みました。
ユーロ円も一時132円台まで下落しました。
今週は、早期に反発しない限りは下落トレンド入りの可能性が強まったように思います。
ユーロドルの次のターゲットはパリティ、ユーロ円の次のターゲットは130円付近となりそうです。

ユーロ円の予想レンジは129円から137円です。

ポンド円は下落トレンドを継続しています。
ポンドドルの下落に歯止めがかからない限り、150円付近までの急落も考慮しておいたほうが
良いように思います。

ポンド円の予想レンジは150円から162円です。

NYダウの動きが怪しくなってきました。
32,000ドルを完全に割り込んでしまい、下落トレンド入りしてしまった場合には
今後の金利引き上げ状況にも影響する可能性があり、ドル高トレンドにも変化がありそうです。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(5/9~5/13)

先週は一進一退の動きが続いたのち、金曜日の米国雇用統計の好結果を受けてドル高がもう一步進む形となりました。

今週もドル高は継続しそうですが、特にポンドドルの急激な動きには注意が必要なように思います。

先週のドル円は、一進一退の動きが続いたのち、金曜日に発表された米国雇用統計の好結果を受けて130円台後半までドル高が進みました。

今週もドル高が継続する可能性が高いように思いますが、131円台後半のレジスタンスラインが意外に強く、このラインを突破するには少し時間がかかるかもしれません。

ドル円の予想レンジは127円から135円です。

先週ユーロ円は、136円台前半から137円台後半までの非常に小さな動きとなりました。138円付近が弱いレジスタンスラインになっているようです。

今週は、米国雇用統計の好結果を受けて再び140円台を狙う展開が期待されますがユーロドルが再び1.05割れ目前となっており、1.05を割ってしまった場合にはユーロ円も急落する可能性を考慮したほうが良さそうです。

ユーロ円の予想レンジは130円から140円です。

ポンドはポンドドルの下落が継続しています。

次の目標が1.2付近となっている可能性が高いので、ポンド円も今週中に160円を割ってしまう可能性を考慮したほうが良さそうです。

ポンド円の予想レンジは150円から170円です。

米国雇用統計(非農業部門雇用者数)の好結果を受けて、単なる円安ではなくがドル高の動きがハッキリとしてきました。

月曜日、東京市場でGW明けからの取引が本格化する中、米国雇用統計の好結果がどこまで反映されてくるのか、まずはこのあたりの動きに注目です。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

-----5月2日-----

2022年

※ 今週のアウトルック(5/2~5/6)

先週は通貨ペアごとにややまちまちな動きとなりました。
円安からドル高にシフトしていると考えたほうが良さそうです。

今週もドル高は継続しそうですが、特にユーロやポンドなどのドルに対する動きから目が離せそうもありません。

先週のドル円は、木曜日に130円付近のレジスタンスを突破して131円台まで上昇しましたが、金曜日には129円台まで下落してそのまま週末を迎えています。

今週も再び130円台に乗せようとする動きが活発化しそうですが、米国雇用統計の結果を確認してからドル買いを進めようとする慎重派も増えているように思います。

ドル円の予想レンジは127円から135円です。

先週ユーロ円は、週中盤に一度135円付近まで下落して136円台で週末を迎えています。
ユーロドルが下降トレンド入りした可能性が強いことが気になります。

今週も、ユーロ円が再び上昇できるかどうかは、ユーロドルが下げ止まるかどうかにかかるところが大きそうです。

1.05を割ってしまった場合には、バリエーまで行く可能性が高そうです。

ユーロ円の予想レンジは130円から140円です。

ポンドはポンドドルが1.2付近まで一度下落する可能性が高まっています。
ポンド円も150円付近まで下落する可能性も考慮したほうが良いかもしれません。

ポンド円の予想レンジは150円から170円です。

今週はユーロドル、ポンドドルの動きに注目です。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/25~4/29)

先週は火曜日にもう一段上のレジスタンス付近まで、円安が進んだ通貨ペアが多かったですが、その後停滞状態となり、そのまま週末を迎える形となりました。

今週は、レジスタンスラインをクリアして更なる高値を目指すのか、それとも一時調整といった状況になるのか、あるいは通貨ペアごとに状況が変わってくるのか。今後の状況を占う上で、重要な週となりそうです

先週のドル円は、火曜日に129円台中盤まで上昇しましたが、その後130円付近のレジスタンスをクリアできず、そのまま128円台で週末を迎えました。

今週も130円付近のレジスタンスラインに行く可能性は高いですが、今週突破できる可能性は4割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは125円から135円です。

先週ユーロ円は、140円付近まで上昇しましたが、週末には138円台まで少し下落してそのまま週末を迎えています。

ただ、ECBが利上げ時期を明確にして、しばらく利上げを継続することを示唆したことからユーロドルが1.07付近のサポートをキープできる可能性が高まったようにも思います。

今週、ユーロ円が140円付近のレジスタンスラインをクリアできる可能性は6割程度と考えています。

ユーロ円の予想レンジは135円から145円です。

ポンドは先週金曜日に、ポンドドルが1.3のレジスタンスを大きく割り込んでしまい、ポンド円も上昇トレンド継続に陰りが見えてきた状況です。

165円を完全に割り込んできた場合には、160円付近まで調整する可能性も考慮したほうが良いように思います。

ポンド円の予想レンジは160円から170円です。

原油先物など、市場が少し沈静化してきたように思います。

今週、来週と市場動向にある程度の変化がある可能性も考慮するべきように思います。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/18~4/22)

先週は基本的には先々週と同じような動きとなりました。
米ドル円、ポンド円などは上昇トレンド継続、ユーロ円、オージー円などは停滞、
といった状況です。

今週は、ドル円、ポンド円は上昇トレンド継続ということになりそうですが、
ユーロドル、オージードルがサポートラインを割り込んだ場合には、
ユーロ円、オージー円も下落トレンド入りする可能性はありそうです。

先週のドル円は、完全に125円付近のレジスタンスをクリアしました。
利益確定をこなしながら、順調に上昇トレンドを継続している状況です。

今週も130円付近まで、レジスタンスらしいものが見当たらない為、
利益確定をこなしながらの上昇トレンド継続の可能性が高そうです。

ドル円の予想レンジは125円から130円です。

先週ユーロ円は、134円から136円までの狭い動きとなりました。
ユーロドルの1.08付近のサポートがかなり危うくなっているのが気になります。

今週、ユーロドル1.08を完全に割り込んでしまった場合には、ユーロ円も下落トレンド入り
する可能性が高まります。130円付近を目指す展開となる可能性も考慮しておいた方が
良いかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは130円から140円です。

ポンド円は165円付近のレジスタンスクリア目前といった状況です。
クリアできれば、170円付近まで上昇トレンドを継続しそうです。

ポンド円の予想レンジは162円から170円です。

ドル円、ポンド円などの上昇トレンドはもうしばらく続きそうですが、ウクライナ情勢や
原油価格、米国金利などに大きな変化があった場合には、状況が一変する可能性も
あるので注意が必要です。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/11~4/15)

先週は通貨ペアごとでまちまちな動きとなりました。
米ドル円、ポンド円などはレジスタンスラインまで上昇、ユーロ円、オージー円などは停滞気味、
といった状況です。

今週は、ドル円がレジスタンスラインをブレイクできるかどうかで、状況が大きく変わりそうです。

先週のドル円は、再び125円目前まで上昇してそのまま週末を迎えました。
ボラティリティは小さいものの上昇基調は崩れていないようです。

今週は米国債の動きにも大きく影響されそうですが、レジスタンスブレイクできる可能性は
6割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは121円から130円です。

先週ユーロ円は、135円を挟んでの小さな動きとなりました。
円売りが進む中、ユーロドルの下落の影響が大きいようです。

今週は、ユーロドルが再びサポートラインである1.08付近に達していて、
ここから折り返せるのか、それともサポートラインを割ってしまうのかにより、
今後の状況が大きく変わりそうです。

ウクライナ情勢の変化によっても大きく変わりそうですが、
サポート割れを起こした場合には、ユーロ円も130円を目指す展開となる可能性も
考慮したほうが良さそうです。

ユーロ円の予想レンジは130円から140円です。

ポンド円は163円で停滞していますが、再び165円付近のレジスタンスブレイクに行く
可能背が高そうです。

ポンド円の予想レンジは159円から170円です。

先週一週間で、ドル円、ポンド円などは調整終了となり、今週はレジスタンスをブレイクして
再び上昇トレンドを再開するのか、週初の動きが注目されます。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(4/5~4/8)

先週は月曜日こそ円安基調でしたが、その後はやや円高気味となり、金曜日には少し円安に振れてそのまま終了となりました。

今週は、先週月曜日の高値付近にあるレジスタンスラインを超えられるかどうか、大きなポイントとなりそうです。

先週のドル円は、月曜日に一度は125円台まで上昇したものの、その後は121円台前半まで後退し、金曜日には少し戻して122円台中盤で終了しました。

ドルとの金利差による構造的な円安との見方が強く、130円付近まで円安が進むとの見方も出ているようです。

今週も、125円付近のレジスタンスラインにトライする可能性は強いですが、今週ブレイクできる可能性は4割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは121円から126円です。

先週ユーロ円は、月曜日に138円付近まで円安が進み、木曜日には134円台まで後退し金曜日に135円台まで戻してそのまま終了しています。

今週、138円付近がレジスタンスラインとなっているようですが、このラインをすぐにブレイクすることは、いささか難しいように思います。

135円から137円付近のレンジ的な動きになる可能性が高いのではと考えています。

ユーロ円の予想レンジは134円から138円です。

ポンド円も165円付近を頂点として、一度戻しています。

今週、高値を更新していく可能性は、いささか低いように思います。

ポンド円の予想レンジは159円から165円です。

金利差への注目が強くなっていますが、これまでの上昇スピードを考えますと一度調整、あるいはしばらく足踏み状態となる可能性が強いように思います。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(3/28~4/1)

先週も円安の勢いが止まらない状況でした。

3月の初めから、ドル円で7円、ユーロ円で10円程度、すでに上昇しています。

今週も利益確定を消化しながら上昇傾向は継続しそうですが、週末には年度替わりとなるため、いささか注意が必要のように思います。

先週のドル円は、金曜日に利益確定に押されて若干下落したもの、1週間で3円程度上昇しています。

今週も、すぐにはレジスタンスが見当たらない為、利益確定をこなしながら上昇する可能性が高そうですが、年度末の実需指導の動きには、注意が必要のように思います。

また、上昇を開始してから10円程度の節目となる、125円付近がターニングポイントとなる可能性はあるやもしれません。

ドル円の予想レンジは120円から125円です。

先週ユーロ円上昇トレンドを崩していません。

週末に134円付近まで後退しましたが、反転の兆しはまだ見えないように思います。

今週も、135円付近までは順調に上昇が期待できそうですが、ユーロドルが再び下落の兆候を見せている点が気になります。

ユーロ円の予想レンジは130円から136円です。

ポンド円は先週火曜日にレジスタンスをブレイクして160円台へ大きく上昇しました。

今後、165円あたりまでは大きなレジスタンスは見当たりません。

政治的な動きなどに影響されなければ、165円付近までは上昇する可能性はありそうです。

ポンド円の予想レンジは157円から165円です。

3月に入ってから円安トレンドの大きな波が続いています。

年度末を迎える今週、そろそろ変化があってもおかしくないかもしれません。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(3/14~3/18)

先週は円安が進む週となりました

特にドル円は、このところのレジスタンスラインの116円付近を金曜日にブレイクすると117円台前半まで大きく上昇しました。

今週も米ドル、カナダドル、オージーなどを中心に円安が進みそうですが、ユーロ、ポンドは、ある程度下落傾向となる可能性が高いかもしれません。

先週のドル円は、金曜日にこのところのレジスタンスラインである116円付近をブレイクすると、117円台前半まで大きく上昇しました。

今週も、すぐには強いレジスタンスラインが見当たらないため、利益確定売りを消化しながら118円台後半までドル高が進む可能性が高そうです。

ドル円の予想レンジは116円から118.5円です。

先週ユーロ円は、125円付近からリバウンドしたものの、129円より先へはなかなか進めないようです。

今週もユーロドルを中心とした売り攻勢から、ユーロ安が続く、あるいはレンジ内での動きが続く可能性が強いように思います。

ユーロ円の予想レンジは124円から129円です。

ポンド円はなんとか上昇基調を維持していますが、ポンドドルが先週末に1.3付近まで下落しています。

1.3を割り込んだ場合には急落に対する注意が必要です。

ポンド円の予想レンジは150円から155円です。

米ドルの独歩高傾向が強くなっていますが、NYダウの再度の下落、原油先物の再度の上昇には注意が必要のように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(3/7~3/11)

先週はドル円は狭いレンジでのみみ合い、ポンドは下落、ユーロは大きく下落、というような結果となりました。

ウクライナ情勢の影響がユーロにより出ているようです。

今週もウクライナ情勢に大きく左右されそうです。

早期に終息の様相が見えてくれば、ユーロなどは大きくリバウンドしそうですが、なかなか難しいように思います。

またその逆のシナリオとなった場合には、パニック的な売りには警戒が必要です。

先週のドル円は、114円台中盤から115円台後半までの狭い動きとなりましたが、ユーロに対しては大きく上昇しています。

今週は、ウクライナ情勢次第でおおきく変わりそうですが、最悪のシナリオが実現された場合には、ドル円も下落する可能性を考えたほうが良いかもしれません。

ドル円の予想レンジは113円から116.5円です。

先週ユーロ円は、金曜日に127円付近のサポートを割り込んで大きく下落しました。ウクライナ情勢の先行きが不透明度を増すにつれ、ユーロ売りが活性化しているようです。

今週はウクライナ情勢が好転の兆しを見せない限り、次のサポートラインである123円付近まで下落する可能性を考慮しておいたほうが良さそうです。

ユーロ円の予想レンジは122円から129円です。

ポンド円も週末には大きく下落しました。

150円付近で下げ止まらなかった場合には、急落に注意が必要です。

ポンド円の予想レンジは149円から157円です。

今回の米国雇用統計の結果などは、為替の動きにあまり影響していないようです。今週もウクライナ情勢に関する報道には、常に耳を傾ける必要があります。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/28~3/4)

先週はロシアのウクライナ侵攻に伴い、各通貨ペアともに大きく動きました。特に木曜日、金曜日は、ユーロを中心とした動きが活発化しました。ただ、金曜日終盤には底値を確認したかのように、大きく戻して終了しています。

今週もウクライナ情勢に左右されそうですが、週末の買戻しも一段落しているように感じます。

ウクライナ侵攻の早期終息、あるいは長引いてしまう可能性についての判断が今後の相場を大きく左右しそうです。

先週木曜日のドル円は、ウクライナへのロシア侵攻に合わせて一時114.4円付近まで下落しましたが、その後の戻りも早く木曜日のNY市場終了時には115.5円付近まで戻ってきています。

今週は、週末に優勢だった買戻しがどの程度まで進むのかをまず見極める必要があるように思います。

このところのレジスタンスラインの116.5円付近を超えてくるには、もう少し時間がかかるように思います。

ドル円の予想レンジは114.5円から116.5円です。

先週ユーロ円は、ロシアのウクライナ侵攻に合わせて128円付近まで下落しましたが、戻りも早く週末には130円台を回復してそのままNY市場を終了しています。

今週はまず、買戻しによるリバウンドがどの程度まで進むのかに注目が集まりそうです。131円付近に弱いレジスタンスができているようなので、このラインを超えられるかどうかで、今後の展開が大きく変わりそうです。

ユーロ円の予想レンジは129円から132円です。

ポンド円も木曜日には、153円付近まで下落しましたが、金曜日には買戻しが優勢となり、155円付近まで戻してそのまま週末を迎えています。ただ、戻りは他の通貨ペアと比べて鈍く、このまま157円付近まで戻すにはある程度時間が必要かもしれません。

ポンド円の予想レンジは154円から157円です。

金曜日にはNYダウが大きく反発し、原油先物が下落しました。
既にウクライナ侵攻が終息に向かっているかのような動きですが、
まだまだ楽観視は禁物のように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/21~2/25)

先週はウクライナ情勢に大きく振り回される週となりました。
ロシアや米国の軍事関係の報道に、特にユーロ関連が大きく動きました。
回避できるとの報道が流れた場合も、買戻しがかなり強いようです。

今週もウクライナ情勢に大きく左右されそうですが、そろそろ何らかの方向性が見えてくるかもしれません。

その時の売り、買戻し圧力とも、今以上に大きなものになりそうです

先週のドル円は、ウクライナ情勢の報道に左右されて115円台での動きとなっています。
また、FRBの今後の動向に関する報道にも影響されているように思います。

今週も、ウクライナ情勢に大きく左右されそうです。
夜間の時間帯に情勢が大きく変わることも多いので、オーバーナイトポジションはあまり持たないほうが良いかもしれません。

ドル円の予想レンジは114円から117円です。

先週ユーロ円も、ウクライナ情勢に大きく左右されています。
テクニカル的にも130円以下へ割り込んでしまった場合には、急落の可能性もありそうです。

今週は、先週末に130円台前半まで下落しているため、130円付近のサポートラインで
支えきれなかった場合には、ウクライナ情勢の報道を待たずに急落する可能性も
考慮しておいたほうが良いかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは127円から133.5円です。

ポンドはEUR/GBPの動きから、ややユーロからの逃避先になっているように思います。
ユーロが急落した場合、ポンドが上昇する可能性も視野に入れておいたほうが
良いかもしれません。

ポンド円の予想レンジは155円から158円です。

ウクライナ情勢に関する報道が一枚岩ではない可能性もあります。
情報を起点としたポジション取りは、あまり行わないほうが良いかもしれません。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/14~2/18)

先週木曜日までは円安が進みましたが、金曜日に大きく円高に振れました。ウクライナ情勢の緊迫が一気に高まったことが理由のようです。

今週は、ウクライナ情勢に大きく左右されそうです。特にロシアが侵攻を開始した場合には、急落に対する注意が必要のように思います。

先週のドル円は木曜日までは円安が進んだものの、金曜日NY市場の後半、一気に円高が進みました。

今週は、NY市場後半の流れがどのあたりまで波及するかをまずは見極める必要がありそうですが、ウクライナ情勢の変化には注意したいところです。

ドル円の予想レンジは114円から117円です。

先週ユーロ円は、木曜日に133.148円まで円安が進んだものの、金曜日のNY市場後半には一気に130円台まで円高が進みました。

今週は、ウクライナ情勢に大きく左右されそうですが、ドル円よりもユーロに与える影響のほうが大きいかもしれません。

ウクライナ情勢の動向次第で、大きく乱高下する可能性も考慮する必要がありそうです。

ユーロ円の予想レンジは127円から133.5円です。

ポンド円もドルやユーロほどではないにしろ、ウクライナ情勢の影響を受けています。ただ、ドルやユーロの受け入れ先となっている状況もあるため、一概に大きくポンド売りが進むとは言い切れないようにも思います。

ポンド円の予想レンジは155円から158円です。

更にウクライナ情勢が悪化に進んだ場合、どの程度までユーロやドルの売りが進むのか、また、解決への方向に進んだ場合にはリバウンドがどのような形で起こるのか、なかなか、難しい判断を迫られそうです。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(2/7~2/11)

先週は週中あたりまで円高が進みましたが、木、金曜日は円安が進む形となりました。週末に発表された米国雇用統計(非農業部門雇用者数)は予想を大幅に上回る結果となり、米国債利回りが急上昇、ドル高が進みました。

今週は、米国雇用統計の好結果の影響がどの程度まで広がるかを、まずは見極める必要があります。各通貨ペアともレジスタンス付近まで到達しているものが多いため、このままレジスタンスブレイクできればさらなる上昇が期待できそうです。

先週のドル円は金曜日の米国雇用統計の好結果を受けて、115.5円付近まで上昇しました。ただ、NY市場の後半ではレジスタンスブレイクに挑むような動きはあまり出ていないようです。

今週は、月曜日に利益確定の動きが活性化しない限り、115.5円付近のレジスタンスブレイクに挑む動きが強まりそうですが、何度かトライしてブレイクできなかった場合には114円付近まで一度後退する可能性が強まりそうです。

ドル円の予想レンジは114円から117円です。

先週ユーロ円は、週末には132円付近まで到達しています。ユーロドルが木曜日に急上昇したところが大きいですが、1.15付近のレジスタンス付近にとすでに到達しているためブレイクできなければ、1度1.13付近まで後退する可能性はありそうです。

ユーロ円もユーロドルがレジスタンスブレイクできれば、133.5円付近まで上昇する可能性はあるように思います。

ユーロ円の予想レンジは129円から133.5円です。

ポンド円は156円付近まで順調に上昇しましたが、ポンドドルの動きに調整色がやや強まっています。

早い時期に158円付近まで到達できない場合には、155円を挟んだレンジ的な動きになる可能性もありそうです。

ポンド円の予想レンジは152円から158円です。

欧米で利上げに関するコメント増える中、円安が進む条件が整いつつあるようにも
思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(1/31~2/4)

先週は全般的にはドル高の動きとなりましたが、クロス円は通貨ペアごとに少し異なった動きとなりました。

ただ、金曜日のNY市場ではNYダウの上昇に反比例するようにドル円は下落しました。今週はまず、金曜日のNY市場での円高が単なる調整なのか、トレンドが変わる前兆なのかを見極める必要がありそうです。

先週のドル円は木曜日までは順調にドル高が進みましたが、金曜日のNY市場では115.2円付近まで下落してそのまま終了しています。

今週はまず、金曜日のNY市場での動きがどの程度まで進むのかを見極める必要がありそうです。テクニカル的には単なる一時的な調整と考えてよさそうですが、NYダウの動きも不安定な状況となっているので注意が必要のように思います。

ドル円の予想レンジは114円から117円です。

先週ユーロ円はユーロドルの下落に合わせて下落を継続しています。ユーロドルが木曜日に1.117付近のサポートラインを割り込んでしまったことから、127.5円付近まで下落する可能性が強いように思います。

今週は127.5円付近のレジスタンスを抜けてしまった場合についても想定しておいたほうが良いかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは125円から130円です。

ポンド円は上昇トレンド入りする気配を見せていましたが、先週後半に入り少し怪しい状況となっています。

このまま155円付近のレジスタンスを破れずに何日か経過した場合は、再び下落する可能性が強まりそうです。

ポンド円の予想レンジは150円から156円です。

ウクライナ情勢も予断を許さない状況となってきています。

侵攻が始まった場合の急激な動きには注意が必要です。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(1/17~1/21)

先週はリスク回避センチメントが支配的となり、円高、ドル安が進みました。
今週は、年始から続いたドル売り傾向に歯止めがかかるのどうか、
まずは注目されます。

先週のドル円は金曜日に113円台中盤まで下落しましたが、その後持ち直し
わずかながら日足が陽線を示し、テクニカル的にはここからリバウンドを期待できる
形となっています。

今週はリバウンドを期待したいところですが、ある程度固いサポートラインは112.5円付近
となっており、もう一度このあたりまで下落する可能性も否定できないように思います。
月曜日にある程度の上昇が見込めない場合には、112.5円付近まで一度下落する
可能性が強まりそうです。

ドル円の予想レンジは112.5円から116.5円です。

先週ユーロ円は130円から131.5円付近で推移したのち、金曜日には一度
129円台まで下落しました。

今週はここからリバウンドできるかどうか注目されますが、テクニカル的には
一度下落する可能性を示すものが多いようです。
月曜日の動きが今後しばらくの動きを示唆するようにも思います。

ユーロ円の予想レンジは129円から132円です。

ポンド円は158円付近のレジスタンスブレイクに何度か失敗して、
テクニカル的には一度後退する可能性が強まっています。

今週、155円を割り込んでしまった場合には、一度154円付近まで下落する可能性も
否定できないかもしれません。

ポンド円の予想レンジは154円から160円です。

今年に入ってからドル安、円高傾向が単なる調整なのか、トレンドの変化なのか、

今週の状況次第ではある程度見極められるかもせしれません。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(1/11~1/14)

先週の金曜日に発表された米国雇用統計は失業率こそ改善されたものの非農業部門雇用者数は市場予想を下回るものでした。

その結果を受けて、NY市場終了時まである程度円高が進むこととなりました。

今週は、雇用統計の結果がどのように影響してくるのかをまずは見極める必要がありそうですが、ドル売りがどの程度進むのかを確認したいところです。

先週のドル円は火曜日に115.5円付近のレジスタンスブレイクに成功すると、116円台中盤までドル高が進みましたが、週末にかけては115.5円付近まで下落しそのまま週末を迎えています。

今週は週初めの早い時期にリバウンドできるかどうかポイントとなりそうです。このところの上昇が急ピッチであったため、テクニカル的にはそろそろ利益確定に押されて、下落する可能性を示唆するものも多く、もたついてしまった場合にはある程度の調整する可能性が強まりそうです。

ドル円の予想レンジは114円から117円です。

先週ユーロ円は概ね130円から132円付近のレンジで推移しました。テクニカル的には上昇トレンドはまだ崩れていないようです。

今週は132円付近のレジスタンスをブレイクできるかどうかポイントとなりそうですが、なかなかブレイクできない場合には、再び129円付近まで調整する可能性も高まりそうです。

ユーロ円の予想レンジは129円から133.5円です。

ポンド円も156円付近のレジスタンスブレイクに成功したものの158円付近のレジスタンスに苦戦しているようです。今週ブレイクできる可能性は5割程度と考えています。

ポンド円の予想レンジは154円から160円です。

オミクロン株の広がりに伴い、NYダウ、日経平均などは下落傾向が続いています。

このあたりの影響が為替にどう影響するのかを、きちんと見極める必要があります。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 今週のアウトルック(1/4~1/7)

年末から年始にかけては、ドル高円安が少しずつ進んだ形となりました。

今週はまず、ドル円が115.5円付近のレジスタンスを超えられるかどうか、大きな課題となりそうです。

本日、抜けてしまう可能性もありますが、抜けられなかった場合も何度かトライに行く可能性が強そうです。

先週のドル円は年末から年始にかけて少しずつ上昇する形となりました。

1/3早々、115.5円付近のレジスタンスブレイクにトライしましたが失敗しています。

今週は何度かレジスタンストライに行く可能性が強いですが、ブレイクできる可能性は7割程度と考えています。

ドル円の予想レンジは114円から117円です。

年末年始にかけてのユーロ円は、130.5円付近まで上昇しました。

上昇パワーは幾分衰えているものの、上昇トレンドは崩れていないようです。

今週は131円台に到達できるかどうかはまずはポイントとなりそうですが、ユーロドルの動きが少ないことから、ドル円の動きに大きく影響されそうです。

ユーロ円の予想レンジは129円から132円です。

ポンド円も156円付近のレジスタンスブレイクに幾分手こずっているようです。

ただ、上昇パワーも強くトレンドも崩れていないことから、今週ブレイクできる可能性は7割程度と考えています。

ポンド円の予想レンジは154円から158円です。

本日のNK225の動きが順調であれば、円安がもう一段進む可能性も強いかもしれません。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。